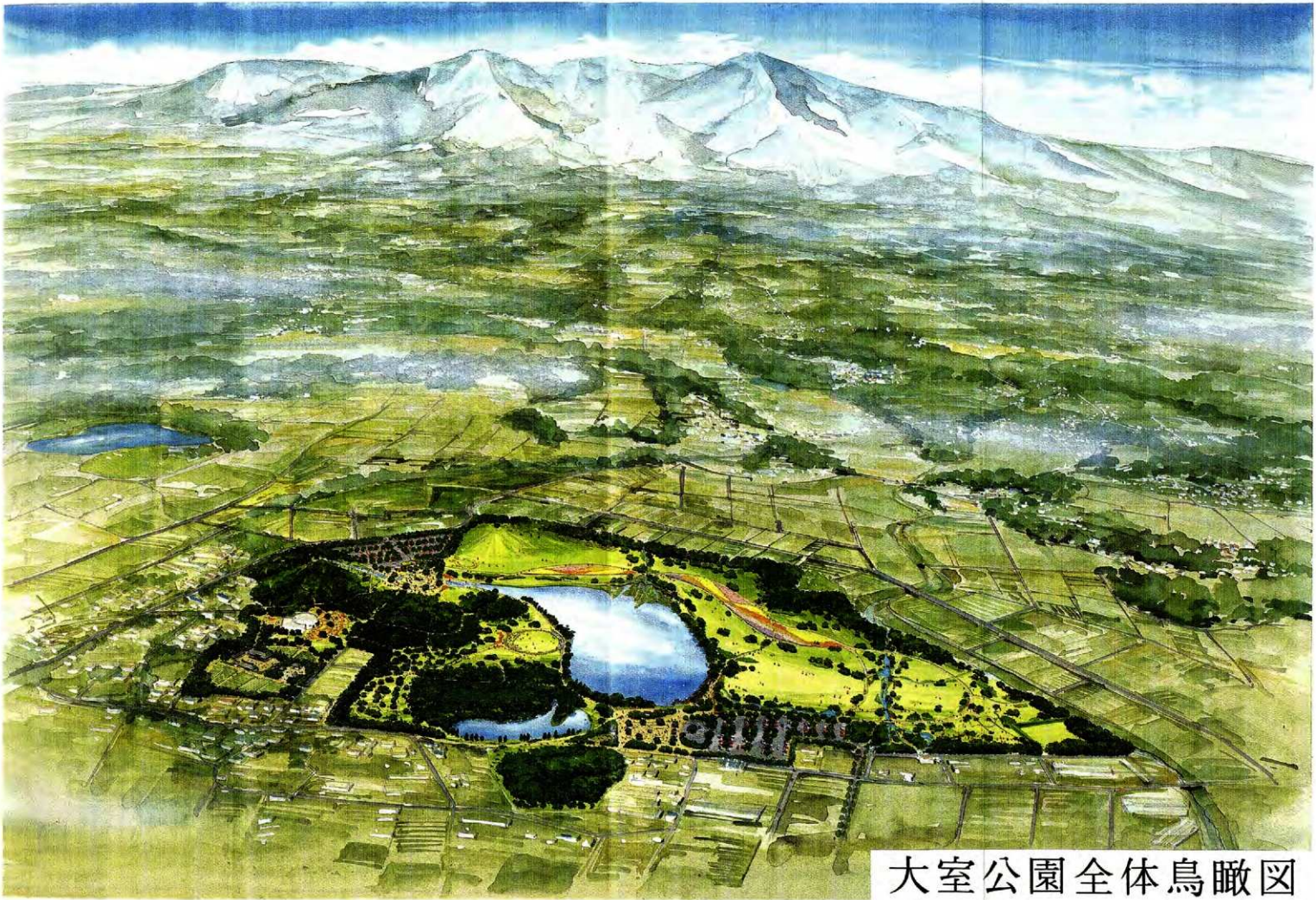


大室公園基本設計報告書

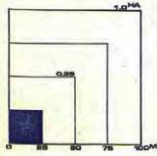
平成3年12月

(社) 日本公園緑地協会



大室公園全体鳥瞰図

大室公園基本設計 全体計画平面図



はじめに

本報告書は前橋市より（社）日本公園緑地協会に委託された「大室公園基本設計」についてとりまとめたものである。

前橋市は赤城山の裾野に位置し、水と緑の恵みを受け、昔よりの歴史を育んできた足跡があり、近年においても多くの文化人が活躍された自然と文化の薫る土地柄である。

市は、「活力と魅力ある総合機能都市をめざして」として、潤いのある住みよいまちづくりを推進し、憩いの場・スポーツの場・遊びの場・教養の場などとしての公園づくり、街の中の緑の創出とともに、住民の様々な活動の場の提供を目指して施設整備を進めている。

本公園は市域東部に広がる田園地帯に位置し、広がりのある景観、豊かで多様な自然、貴重な史跡に恵まれている。史跡は時を越えて人間同志が対話できることを我々に教えてくれ、自然は季節毎、時間毎に姿を変え、その中にたたずむと、山や雲や草木や虫たちと楽しく会話できることを体験させてくれる。公園はこの地に生き、この地を愛する多くの人々とすばらしい自然とにふれあえる場として、また自ら参加し創りあげていくことのできる場として計画を進めた。

この新しい公園づくりについては公園整備と史跡整備の調和を図り、一体のものとして築き上げ、永く市民に利用されつづけるよう祈願するものです。

平成3年12月

社団法人 日本公園緑地協会

— 目 次 —

□ 鳥瞰図・全体平面図	
□ はじめに	
I. 計画の進め方	1
1. 計画の目的と背景	1
II. 基礎条件の整理	3
1. 前橋市の概要	3
2. 関連上位計画	5
3. 敷地条件の整理	8
4. 敷地のとらえ方	21
5. 計画の視点と課題	22
III. 計画の考え方	24
1. 計画のとらえ方	24
2. 公園のあり方とテーマ	25
IV. 空間の構成	27
1. 空間の組み立て	27
2. ゾーニング計画	29
3. 空間容量の設定	33
4. 動線計画	34
5. 景観構成	38
V. 基本設計	40
1. 全体計画と施設内容	40
2. 自然の演出	50
3. 造成設計	55
4. 園路広場設計	58
5. 修景設計	66
6. 建築施設設計	75
7. その他施設設計	80
8. 植栽設計	87
9. 給排水設計	89
10. 電気設計	92
11. 管理・運営計画	98
VI. 概算工事費	102
VII. 今後の課題と提案	107
VIII. 資料編	109

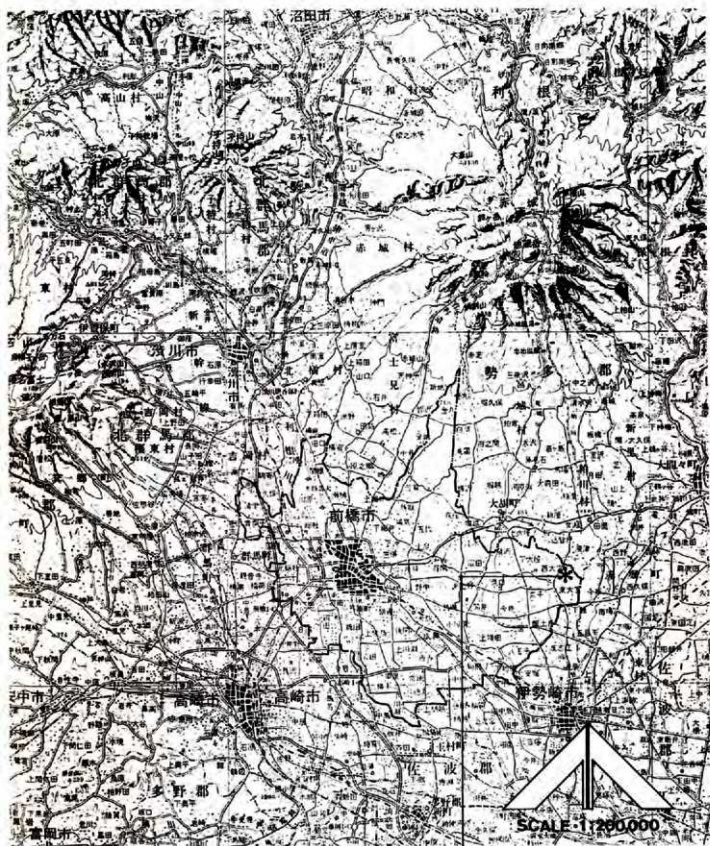
I. 計画の進め方

1. 計画の目的と背景

大室公園は、「第四次前橋市総合計画」（平成元年12月）の中で前橋市で第2番目の総合公園としてとらえられ、「恵まれた自然環境を生かした各種の公園機能と、史跡の保存・活用を図る歴史公園的機能も兼ねた総合公園」としての整備が望まれているものであり、また、本公園内の国指定の史跡である三二子古墳等の文化財に対しては、文化財の面的整備として、三古墳の基礎的整備、赤城型民家の移築・資料館の構想について、検討を進めることと捉えられている。

本計画としては、上位計画である「大室公園基本構想」に則し、大室公園史跡整備委員会で進められている「大室公園史跡整備基本構想」に基づく古墳整備・民家変遷・資料館の各部会との協議調整を図りながら、大室公園の基本設計として、より具体的な検討を図るものである。ただし、古墳調査の実施中でもあり、史跡整備との整合が今後に持ち越される箇所では、提案にとどめるものとしている。

計画地は史跡とともに、赤城山や谷川連峰をのぞむ風光明媚な土地であり、五料沼や水路の豊かな水、古墳を包む森や沼沿いの松並木、なだらかな変化のある丘陵などによる、恵まれた環境を有している。本公園はこうした豊かな歴史的、自然的環境や景観を活かした総合公園（都市計画決定S60.11.15 事業認可S60.12.17）として、現在決定済の36.9ha（史跡指定範囲4.7ha）の敷地に加えて、周辺の望ましい土地もとり込んだ、新たな公園区域による公園の理想像を考察するものとする。



大室公園

位置図

II. 基礎条件の整理

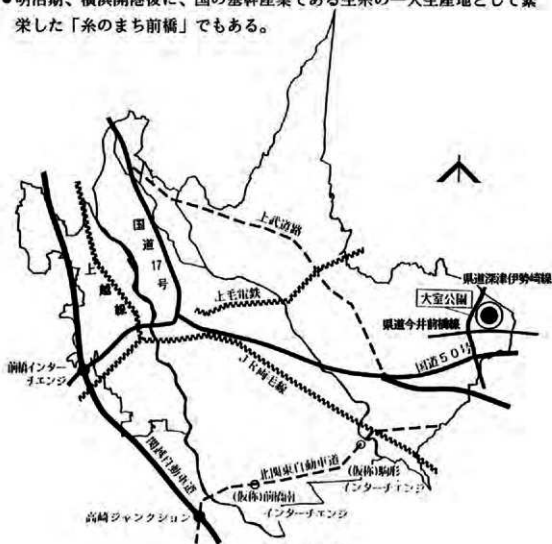
1. 前橋市の概要

前橋市は、関東平野の北西、平野から山岳へ移行する中間部に位置しており、利根川とその支流の形成する沖積低地である赤城山の裾野に市域が広がる人口約28万人の地方中核都市である。以下、前橋市の概要を整理する。

- 沿革**
- 歴史は古く、旧石器時代より、縄文・弥生時代を経て、前橋古墳時代で様々な遺跡を残し、律令時代（5世紀）には、上野国府が置かれ、東国平定の拠点となった。（「東国の奈良」としての一大文化圏の形成）
 - 室町時代に、長尾・長野氏の武士のしのぎ合いを経て、江戸時代に入ると、関東の北の守りとして、譜代の雄藩による統治が行われた。
- 自然**
- 北西に赤城・上信越の山々に囲まれた内陸性気候、気温の日較差が大きく、降水量が少ない。
 - 冬期（11～4月）は晴天が多く、強い北西の季節風が吹く。（「上州のからっ風」）
 - 夏期は気温が高く、雷が発生する。
 - 北に赤城山（標高1,828m）をもち、利根川への多くの支流が市内を貫通する。
- 社会**
- 鉄道交通：東京方面とは高崎経由で、上越新幹線、上越線で結ばれる。市域を東西に横断する二路線（JR両毛線、上毛電鉄）がある。
 - 道路：関越自動車道（前橋I.C.）で東京・新潟と連絡する。国道17号線、50号線が縦・横断する。計画道路として、北関東自動車道・上武道路がある。
 - 土地利用は、人口の増加・産業の集積により、農用地の住宅・工場用地への転用が進み、都市化が徐々に高まっている。
 - 人口は、約28万人、漸増（1.0%）する。高齢化が進展している。
 - 商業は県内第一の販売額で卸売り業では農畜水産物・機械器具の割合が高い。
 - 工業の振興のために企業誘致を進め、金属製品、輸送用機械器具、繊維工業などは、堅調な伸びを示している。

- 農業生産は、米・麦・野菜・果物(れ・りん)・養蚕・花卉(けい)、畜産では、乳用牛・肉用牛・豚・採卵鶏などがある。
- 都市公園・都市緑地については、人口ひとり当たり公園面積7.52m²(H2年度末)、大室公園は2つ目の総合公園である。
- 「水と緑のまちづくり」を推進し、市民生活の多様なニーズに対応しうる多機能施設として、公園や緑地の整備を図っている。

- 人 文
- 旧石器時代より現代までの様々な文化財が残されている。
古墳、国府、国分寺跡、条里遺壇、城跡、赤城型民家、社寺、歴史的建築物(蚕糸記念館・臨江閣など)、神楽、獅子舞。
 - 前橋の行事は初まつり(1/9だるま、植木市、市神祇の御渡)、七夕まつり(7月上旬)、前橋まつり(10月中旬)、花火大会(8/15)などがある。
 - 市内を流れる様々な川が诗情をかなでる“水のまち”であり、萩原朔太郎を始めとした詩人たちが育まれた“詩のまち”である。
 - 明治期、横浜開港後に、国の基幹産業である生糸の一大生産地として繁栄した「糸のまち前橋」でもある。



交通網図

2. 関連上位計画

本計画に関連する上位計画として、「大室公園基本構想」（平成2年度）と史跡整備についての計画「前橋市歴史環境広域整備基本構想」（昭和59年度）「大室公園史跡整備基本構想」（平成2年度）について、その概要を整理する。

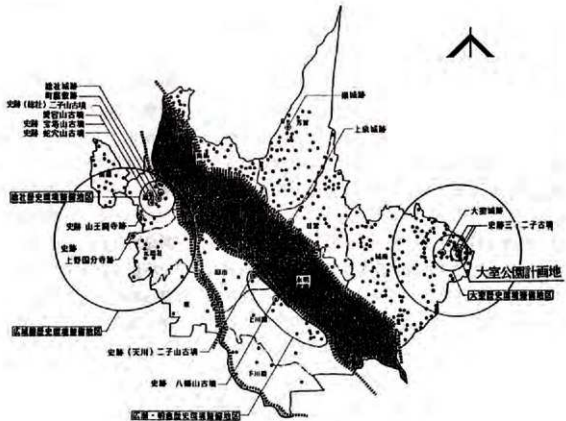
大室公園基本構想

●基本方針

- ①都市計画法に基づく都市施設（総合公園）として、都市計画事業で実施する。
- ②良好な自然環境を活かしながら、「水と緑の健康都市」にふさわしい整備を行う。
- ③赤城山、榛名山等の眺望を活かした景観構成とする。
- ④郷土の歴史、文化（民家）の保存活用を計画する。
- ⑤古墳の保存と、古代を偲ぶ学習施設（資料館）を計画する。

前橋市歴史環境広域整備基本構想

- 大室歴史環境整備地区に対し、三つの大型の前方後円墳と五料沼や緑などの自然環境により、当地区を「歴史と自然の里」として、とらえる。
- 三二子古墳の史跡を中心に、地区全体の様々な歴史的遺産を総合的に整備する。



歴史環境整備構想図

大室公園史跡整備基本構想

●基本方針

- ①計画地の恵まれた景観を維持し活用していくため、現況の地形や環境を最大限生かしながら、植栽整備や便設施設の設置を行い自然な雰囲気での癒え楽しめる環境づくりを目指す。
- ②計画地内の遺跡整備は、現況の良好な保存状態を踏まえ、現状保存を基本としながら、前二子・後二子古墳の石室、M1号墳の形象埴輪列等、遺跡を特徴づける遺構・遺物の補修、復原表示を行い一般に公開することを計画する。

- ③東日本の古墳文化を考えるうえで欠かすことのできない位置を占める計画地内遺跡の歴史的特色をはじめ、赤城南麓地域の歴史・文化を一般にわかりやすく紹介するため、資料館を設けることを検討する。
- ④これに伴い、古墳時代住居の復原や特徴ある民家の移築復原を行い、民家変遷史をあらわす屋外展示を検討する。

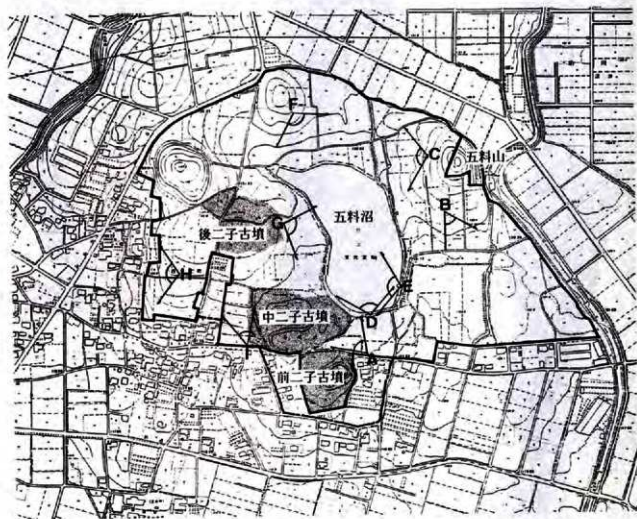
都市公園整備の動向としては、次のように考えられる。

- 建設省の第5次都市公園等整備5箇年計画による重点事項としては、活力ある長寿社会の形成及び国民の心身の健康の維持増進に資する公園整備の推進が唱えられている。特に高齢者の余暇空間の確保、世代間交流及びコミュニティー意識の醸成、健康運動施設の整備、都市住民の自然との触れ合いが重視されている。
- 公園が広域的なレクリエーション需要に対応できる整備内容をもつことも重要と考えられ、このためには、手軽で安価な野外レクリエーション施設の充実、公園自体の個性化、更に、地域の中心性や象徴性としての性格がもてる公園などの視点が重視されてる。
- 歴史的な要素を含んだ公園の扱い方としては、遺跡の保全としてだけの性格をもつものから、遺跡の展示公開による学習の場として整備されるものまで徐々に変化して来たが、今後は、更に楽しみながら知識を深めていく場や、感性の刺激を通して、自己の再発見、郷土愛や人類愛の高揚、地域環境などを考える場などとして、とらえられていくと考えられる。(資料編 参照)

3. 敷地条件の整理

3-1. 敷地の概要

敷地は、ゆるやかな赤城山の裾野に広がる田園地帯の中にあり、古墳や五料沼などの小さな起伏をもった、広々とした土地である。敷地には五料沼(4ha)を始め、中二子古墳の回りの新堤沼や水路など豊かな水や丘、墳丘に残る松林、雑木林の緑、沼の堤に沿ったみごとな松並木、飛びかう水鳥などの豊かな自然が息づき、赤城山を借景とした、印象的な景色をつくりだしている。また、敷地内に様々に残る先人たちの歴史は、自然と相まって、ここならではの里山の文化を映し出している。



- 都市計画決定済公園区域 (36.9ha)
- 基本計画区域
- 国指定史跡 (4.7ha)



現況図

C**B****A**



D



E



F

G



H



I



3-2. 地形

- 敷地西側は、一連の台地が連続し、その台地状の地形の上に古墳の丘が並ぶ。
- 敷地東側は、桂川沿いに用水路の走る平坦地をもつ。
- 敷地は全体に赤城山の裾野として、南にゆるく傾斜する。
- 当地は、墳丘の他に独立峰として、石切場の山（最高峰、標高145.0m）、五料山、ユズの木のある丘をもち、台地の谷間に五料沼を容する。
- 敷地は、活動のしやすい10%以下の勾配の土地が多くを占め、勾配27%以上の険しい所はわずかである。

3-3. 水系

- 五料沼へは、北側の水田用の水路より流入し、沼を経て桂川や用水路に流れる。
- 南東部の低地には、用水路が走る。
- 五料沼への水路は、十分な水量をもち、水質も問題がないが、五料沼は富栄養化がすすんでいる。

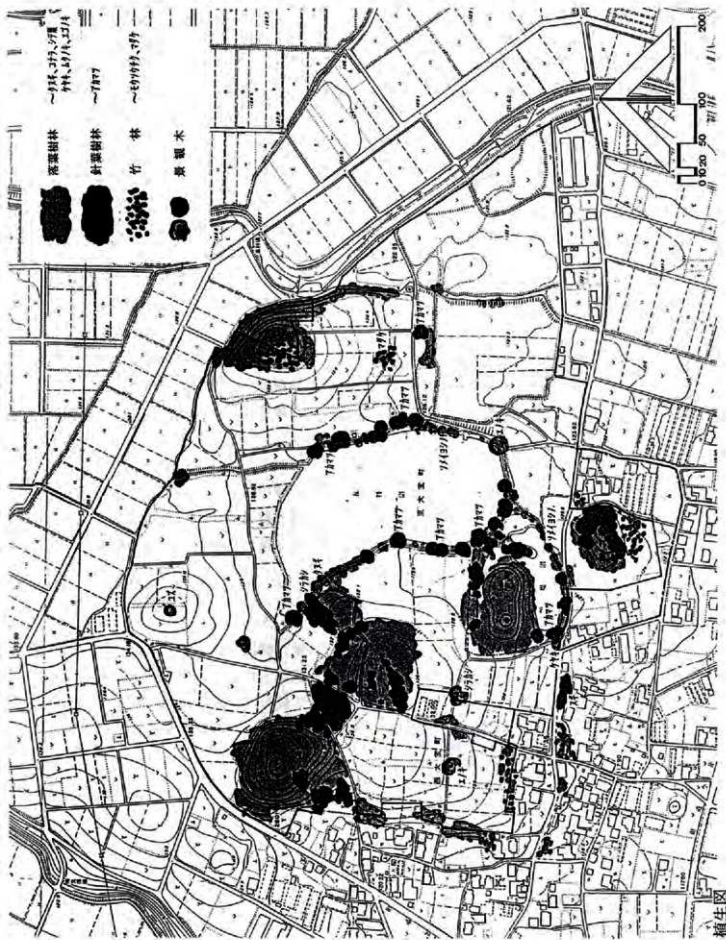
3-4. 植生

- 墳丘や独立峰に、耕作地にされずに残った面的な林がある。
～アカマツ、シデ類、コナラ、ムクノキ、ケヤキ、エゴノキ、ミズキ
- 林の他は草草が広がる。
- 五料沼沿いには、アカマツの景観木が並び、更に、サクラ、シラカシ、エノキ等も点在する。
- 草地の中には、屋敷林の名残りとしてのモウソウチク林や、アカマツ、クヌギ、コナラ、ムクノキなどの小さな群生が見られる。
- 水草群落としては、五料沼、新堤沼にヨシの群落が見られる。

3-5. 動物

- 鳥類は、五料沼の周辺に、水鳥が生息する。
～アオサギ、ゴイサギ、シラサギ、カモ、カワセミ
- 草地には、バッタ、コオロギなどの虫と、ヒバリが見受けられる。
- シジミチョウ(c. f. ウラギンシジミ)、タテハチョウなどの蝶類も飛来する。
- 五料沼・新堤沼は、コイなどが生育する。





3-6. 交通

- 敷地の周辺は、東西・南北の各方面に2つの県道をもち、敷地北西部ではそのうちのひとつ、県道深津・伊勢崎線に接する(前橋市内より12Kmの距離に位置する。)
- 公園アクセスとしては、別に国道50号線をもち、これからのアプローチ道路が公園南部に接続される計画をもつ。
- 路線バス(県庁～西大室)が設けられている。(バス停より徒歩10分)
- 上毛電鉄、JR両毛線の各最寄り駅からは距離があり、アクセスしにくい。
- 車で1時間距離として、周辺の市街地(伊勢崎、桐生、高崎、太田、本庄、深谷など)も誘致圏と考えられる。

3-7. 周辺環境

- 敷地周辺の台地状を呈する部分は、畑地・桑畑が占め、低地部は水田となっている。
- 大室地区の集落は、敷地南西部に広がり、まとまりのある町並みをつくっている。
- 集落の中にはいくつかの社寺が点在する。敷地南には小学校がある。
- 前橋市の市街化調整区域内であり、農業振興地域である。

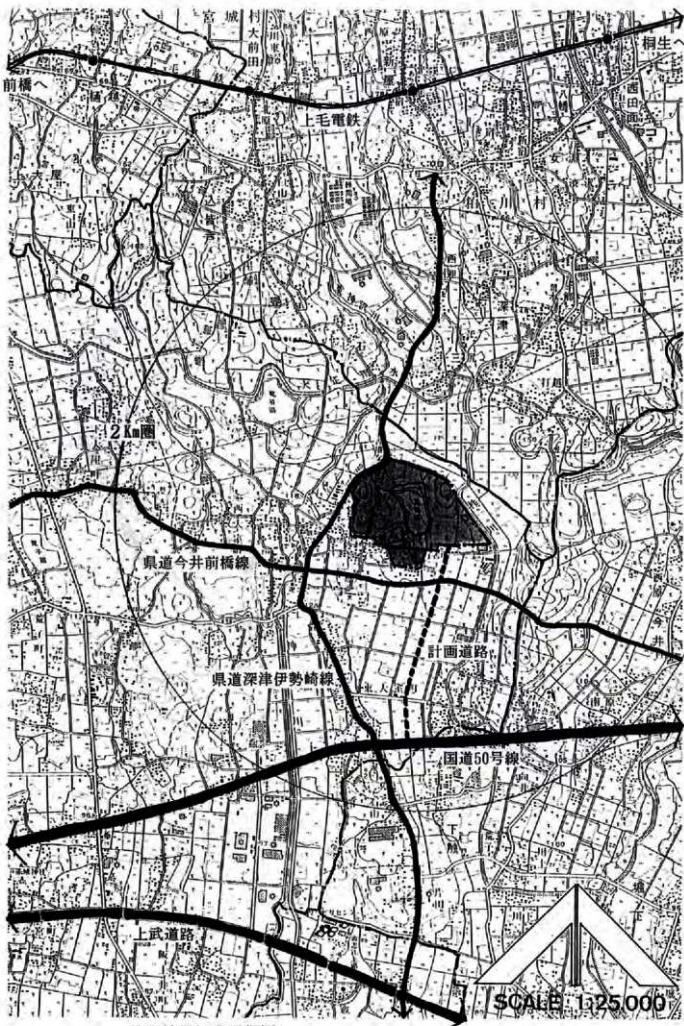
3-8. 遺跡分布

- 敷地内には、三古墳の他、小二子古墳、帆立貝式古墳等のいくつかの古墳を有し、梅木遺跡などの居館跡、住居跡などが点在する。
- 遺跡は、敷地北側に多く分布する。

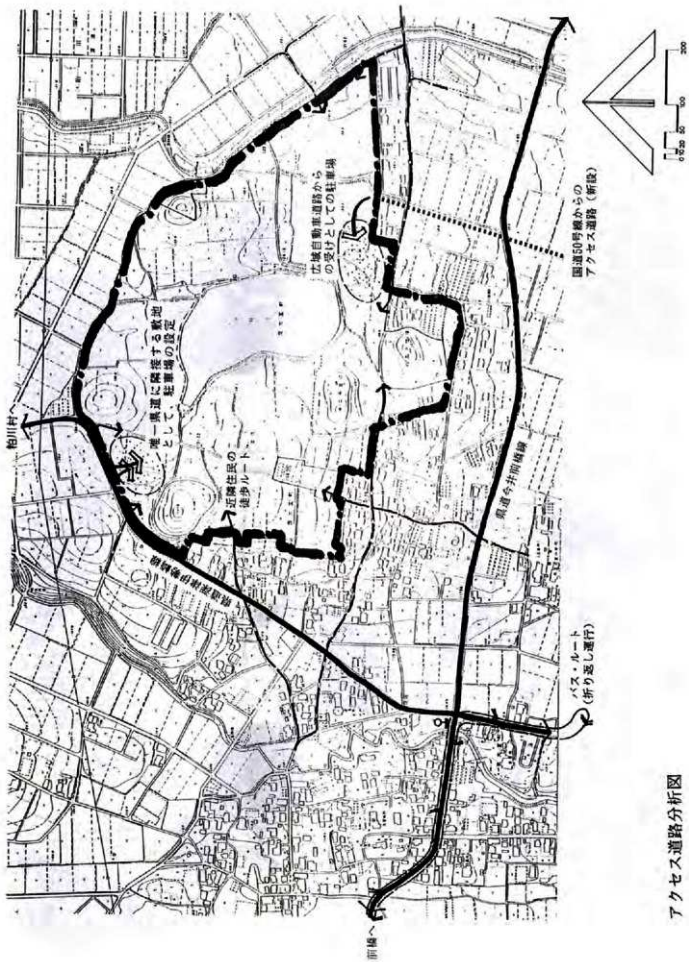
3-9. 景観

- 五料沼周辺は、松並木、水面、赤城山への絵はがきのような眺望により質の高い景観を形成する。同時に墳丘や独立峰の緑と地形が空間に変化を生ませている。
- 敷地は、周辺の風景と関連をもちながら、異なる景観をつくりだしており、次の5つの性格の景観に区分できる。

～集落の景観、森と丘の景観、草地の景観、水の景観、田園の景観



計画地周辺交通網図



アクセス道路分析図



周边土地利用图



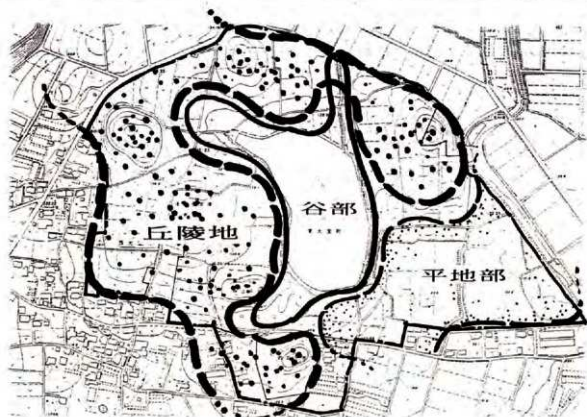
遺跡分布図

4. 敷地のとらえ方

本公園の敷地は、西側では、樹林や小さな丘が敷地を縦断する。また、東側では、桂川沿いに平地がひらけ、中央部には、五料沼や水路による低地が形成されている。

これらの敷地特性から、「丘陵地」「平地部」「谷部」として区分され、異なる3つの空間から形成されていると認識できる。

- | | | |
|-------|-----|--|
| 「丘陵地」 | ——— | 南北に軸をもつ低い尾根／台地状
点在する墳丘・小山（独立峰）／変化のある地形
帯状の樹林が残る
視覚の変化（俯瞰性・眺望性）とランドマーク性
古墳や住居跡などの多くの遺跡をもつ |
| 「平地部」 | ——— | 緩い南下がりの平坦地
周辺の水田と連続性をもつ
開放性のある空間 |
| 「谷部」 | ——— | 五料沼の広い水面とその周辺窪地
水路・低湿地
水と緑（松並木）と遠景（赤城山）のつくりだす景勝地 |



敷地のとらえ方

5. 計画の視点と課題

5-1. 計画の視点

基礎条件の整理・検討を通して本計画を策定するにあたっては、次のような視点で、考察することが望ましい。

- 古墳・遺跡を保全し、土地の歴史を活用する。
- 郷土の文化、土地の培った生活史を応用・展開する。
- 地域のレクリエーション活動の活性化を進める。
- 名勝地としての魅力を高め、里山の自然環境を保全・活用する。

敷地の状況からとらえられる計画に影響を与えるキーワードは、次のようにまとめられる。

- 豊かな自然 ～ 水、緑、鳥や虫、丘と平地、赤城山と山並み、赤城おろし、土のかおり、季節の移ろい
- 土地の風情 ～ 小川、田園、桑畑、雑木林、竹林、松林、松並木、溜池、養蚕、山神様、道祖神、かしぐね、あぜみち
- 悠久の歴史 ～ 古墳、古代住居跡、民家、石切場、沼、地方史、生活史、祭り

5-2. 計画の課題

本公園の計画の中で、検討解決すべき主な課題点を整理すると、以下のようになる。

- 史跡や遺跡の保全・活用の仕方
 - ～公園的利用のあり方
 - 周辺遺跡とのネットワークづくり
 - 土地にある生活史の展開
- 沼・水路など水面のレクリエーション利用と景観づくりのあり方
 - ～水質保全の検討
 - 水利権の検討
 - 五料沼の護岸の景観処理
- 総合公園としての利用性のあり方
 - ～地域住民や前橋市民のニーズへの対応
 - 広域圏に対する行楽地、名所としてのインパクトのあり方
 - 利用者に立った公園利用のための運営プログラムづくり

●公園諸施設の取り扱いについて

- 公園アプローチ・園内動線のあり方
- 駐車場の配置と規模の設定
- 資料館と公園管理センターのプログラム分担のあり方

Ⅲ. 計画の考え方

1. 計画のとらえ方

本公園の計画にあたっては、これまでの基本構想の考え方を踏襲したうえで、より魅力的で存在意義の高い公園を目指して、次のようなとらえ方により、骨組みのしっかりした、深みのある計画を進めていくものとする。

1) 自然と歴史と里山性による大室特有の姿（風土）を、公園の基盤として扱う。

- ・大室の風土を継承し、土地柄との整合を図る。
- ・里山としての人と自然の共存の様子や、人の育んだ歴史・文化のあり方を大切に、伝承する。
- ・今日まで残されてきた自然環境の保全と再生利用を図っていく。
- ・特色ある歴史環境を保全し、文化遺産として守る。

2) 土地のあり方を活かして、もの・ひと・ことによる生き生きとした郷土の公園としてとらえる。

- ・市民・地元住民に対する共有財産化を目指す。
- ・土地の様子を活用し、人々の交流を生むことで郷土の活性化を志向する。
- ・様々な使われ方や、触れ合いを発生させる場としての公園をつくりだす。
- ・郷土の象徴として愛着と誇りを高め、ふるさとへの帰属感を強める。

3) 様々な体験や発見を通して、人々の感性と触れ合うよりどころとしてとらえる。

- ・身近に接され、居ごちのよい場を考える。
- ・人の感性を刺激し、新たな自己の発見をうながす場を目指す。
- ・いつまでも心に残る親密な公園であることを目指す。

2. 公園のあり方とテーマ

本公園を性格づけると、

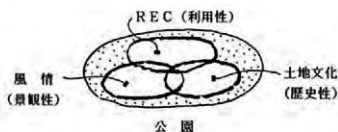
- 特有の情感をもつ里山の風情（景観性）
- 時を越えて伝えられた遺跡や培われてきた土地文化の香り（歴史性）
- 社会のニーズに裏打ちされたレクリエーションへの参加性（利用性）

といった異なる性格が混在しながら形成されるものとしてとらえられ、これらの相乗複合化を図った新たな場の創造が求められる。

そこで本公園は、

- 活力と誇りを生む郷土のシンボル
- 様々な交流・伝承の拠点（人と人・自然・歴史・文化の触れ合い拠点）
- 手軽なレクリエーションと頼いの名勝地

として、固有の公園づくりを進める。



公園の性格

計画にあたって、公園のテーマを以下のように設定する。

人々の五感と共鳴する情緒あふれる公園 — “花鳥風月” の公園

- 郷土の風情や固有の文化と触れ合う。
- 里山のくらしぶりや知恵、自然の営みとのかかわりを感じる。
～大地の感触・土や水とともにくらす、自然と触れ合う。
- 日本人としての自然観を思い出させ、美意識をゆさぶる。
～自然の歳時記を感じる。生活と密接な関わりをもつ植物などへの思い入れをあらわす。
- むかしを偲び、悠久の時の流れに思いをはせる。
～時のロマンを思う

- 自然の様子や季節の移ろいを新鮮に感じる。
～天空の運航を身近に感じる。自然による暦を実感する。
- 土地の不思議さや歴史に興味を持たせ、先人に学ぶ。
- 日本人の自然や物への遊び心（風流）を満たす。
- 人間性の回復・心身の解放を図る。

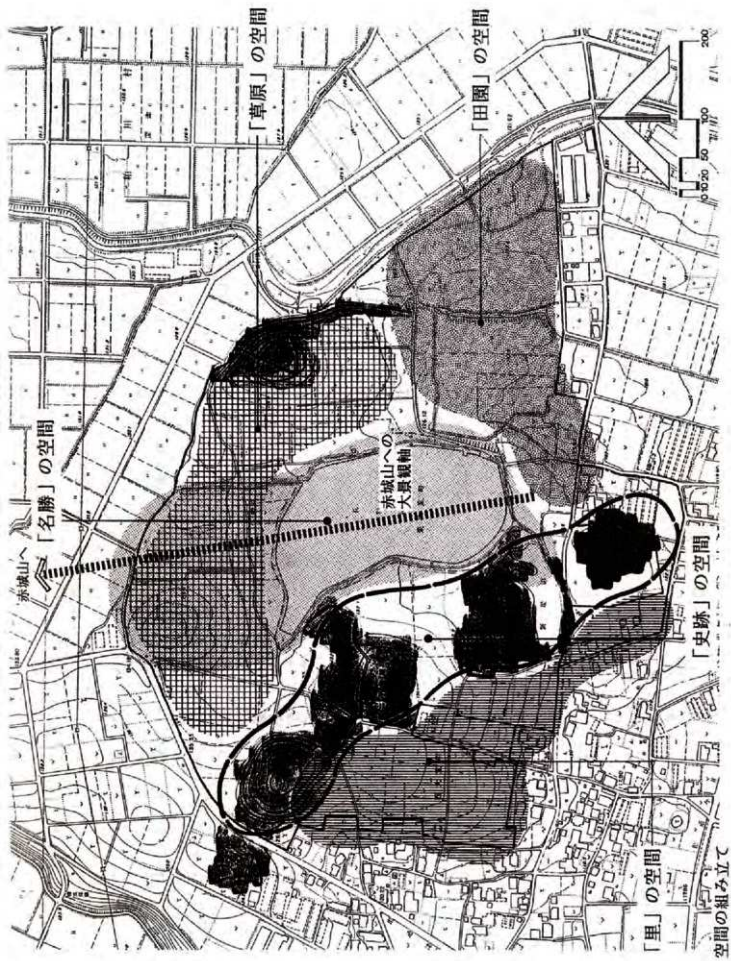
IV. 空間の構成

1. 空間の組み立て

空間の特質により、「丘陵地」「平地部」「谷部」から成る本公園の敷地に対して、それらの特性を展開し、場所ごとのポテンシャルに意味づけを行い、かつ空間に秩序づけを図ることで、公園として新たに空間を組み立てて行くこととする。

空間は、敷地中央部に本公園の象徴的で固有の場である史跡と風景による2つの名所の空間をとらえ、これを中心に、その周辺にそれぞれのポテンシャルを活用した多様な場を補完的に配置させるよう考える。そこで本公園は、異なる性格をもつ次のような5つの空間に分類して、構成、組み立てを図る。

- | | | |
|---------|----|---|
| 「史跡」の空間 | —— | <ul style="list-style-type: none">・史跡名所であり、その象徴空間としてとらえる。・史跡は日本史の中で位置づけられるものとしての質をもたせる。・緑と丘が史跡に重なった状態のベルト状空間としての特質を大切にする。・自然性が高い空間として活用する。 |
| 「名勝」の空間 | —— | <ul style="list-style-type: none">・風景の名勝地として位置づける。・水面を中心とした開放的な空間とする。・赤城山への大景観軸を大切にする。 |
| 「里」の空間 | —— | <ul style="list-style-type: none">・人里の風情をもつ村の裏山のような台地としてとらえる。・生活の場に接し、土地の生活感を活かす。・大衆の文化・生活史と関わるような場とする。 |
| 「田園」の空間 | —— | <ul style="list-style-type: none">・低地で、平坦部による多目的利用のできる空間とする。・適度の広がり大切に、田園景観と連続性を考える。 |
| 「草原」の空間 | —— | <ul style="list-style-type: none">・丘陵地と平坦地の中間性^{ニユー・トランド}をもつびやかな空間とする。・様々な視界のひらけることを活かす。 |



空間の組み立て

2. ゾーニング計画

本公園敷地が、「史跡」「名勝」「里」「草原」「田園」という5つの異なる空間により成り立つことを踏まえ、これらの空間の資質に沿いながら、本公園としてのアクティビティの質や配置、景観性のあり方により、公園を形成するゾーンを次のように設定し、計画する。

「史跡」の空間	—————	“古墳の丘と森”ゾーン “イベント”ゾーン
「名勝」の空間	—————	“五料沼と松並木”ゾーン
「里」の空間	—————	“郷土の歴史”ゾーン “里の花木”ゾーン
「草原」の空間	—————	“草原と風”ゾーン “野草と花”ゾーン エントランス（北）ゾーン
「田園」の空間	—————	“はらっぱと小川”ゾーン エントランス（南）ゾーン

各ゾーンには、それぞれ、以下のような特質と性格をもたせる。

“古墳の丘と林”ゾーン

- 国指定史跡である三二子古墳を保全し、史跡名所として、位置づける。
- 既存の樹林を連続させて残し、本公園において、自然度の高い緑の骨格として意味づける。
- 古墳や樹林内は、歴史や自然との触れ合いや興味を人々に誘発するような場としてとらえる。

“イベント”ゾーン

- 緑と水に囲まれた豊かで居住性の高い空間特性を活かして、人を呼び込む場として特色づける。
- 敷地中央部でアクセスが容易であり、景観性にも優れていることから、多目的なイベントに対応できる場を設定する。

“五料沼と松並木”ゾーン

- 赤城山への眺望を確保し、近景の五料沼、松並木から赤城山までの連続的でおらかな風景を保全して、名勝地とさせる。
- 五料沼の水面は、水鳥・魚・水生生物の生態を守りながらも、人々に対してレクリエーション利用や親水性も考慮する。

“郷土の歴史”ゾーン

- 史跡に隣接させて、歴史への理解と興味をバックアップする資料館を景観性と利用性に留意して配す。
- 復原する古代住居は、資料館と近隣させて、管理の容易さとゾーンとしてのまとまりをつくる。
- 移築される赤城型民家を中心に、昔から営まれてきた人里の情景を総合的に再現させる。特に童謡での「赤とんぼ」や「里の秋」などの情感あふれる世界の創造を図り、コミュニティの場所としても捉らえる。

“里の花木”ゾーン

- 日本人が古来より、身近な生活の中で触れ合い育ててきた植物（園芸植物）の観賞の場として、設定していく。
- 特に愛着のある植物により、早春と秋の季節感を強めた親密な空間を考える。

“草原と風”ゾーン

- 敷地北側に位置するゆるやかな丘は、当地の特色である冬の季節風（赤城おろし）の通りみちと考えられ、土地らしさを反映させながら、自然の様子を感じさせる場として、特色づけを図る。
- この丘にある帆立貝式古墳や古代住居跡などの遺跡は保全を図り、全体に広がりをもたせたシンプルな空間を目指す。

“野草と花”ゾーン

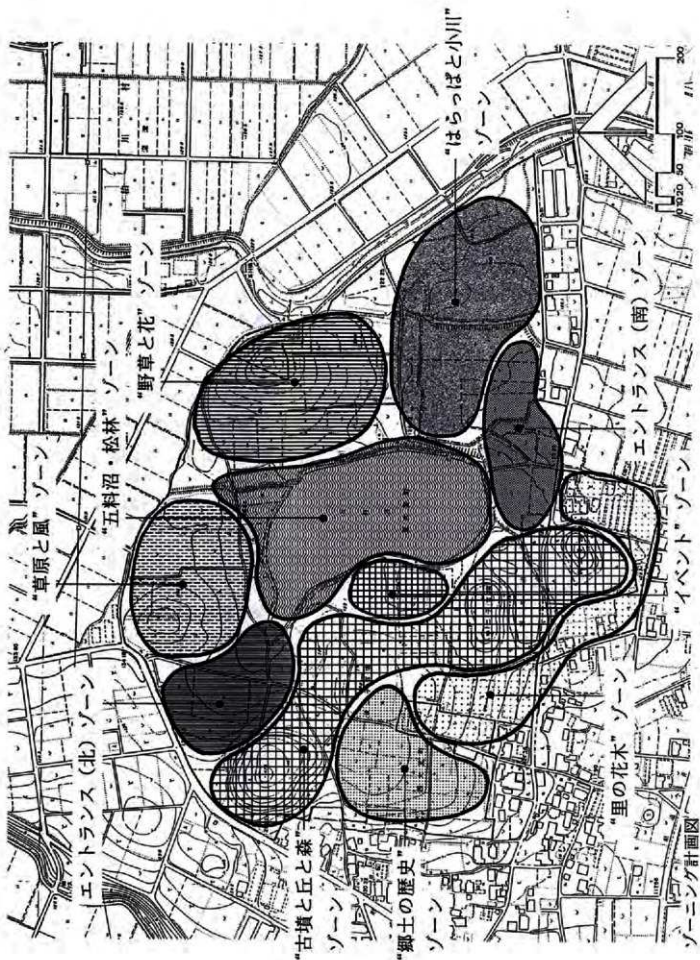
- 五料山を中心とした丘陵地には、自然風でありながらも、季節を通して花々を楽しめる明るい空間を生みだすようにする。
- 草花としては、土着のワイルドフラワーの大草原を創出し、花木としては、桜の名所として位置づける。
- 五料山は、公園を俯瞰できる眺望点（視点場）であることも重視する。

“はらっぱと小川”ゾーン

- 周囲の田園風景と連続したのどかで広がりのある空間として、田園での自然な遊びを誘発し、多目的な利用を可能とした草地や小川を創出する。
- 田園に見られる様々な動物や景色をつくる要素（トンボ・ホタル・カエル・メダカ・水草・土橋など）を活用し再現する。

“エントランス”ゾーン

- 本公園のエントランスは、北口と南口により構成させ、それぞれ駐車場と入口広場を設けて、導入をスムーズに、かつ印象的に演出する。
- 南北2ヶ所の入口広場は、それぞれその場の周辺状況に合わせて、特色的なデザインで表現させるように考える。
- 駐車場は国道50号線からの車両アクセスの、より容易な南口をメインとしてとらえ、駐車規模を大きくさせる。
- 南口の広場には、公園の管理運営の中枢を設ける。



3. 空間容量の設定

本公園の利用者数は次のように算定され、同時最大利用者数は2,000人となる。

敷地規模 — 古墳・水面・駐車場・樹林地 = 有効面積

∴ 37ha — 17ha = 20ha

ゆとりある空間利用として、100m²/人 とすると、

200,000m² ÷ 100m² = 2,000人

アプローチの手段とその比率について考察すると、公園利用者のアプローチ手段として、車両、自転車、徒歩が考えられ、徒歩圏、自転車利用圏（半径5km）の人口、路線バスの利用などを考慮すると、

車両：自転車：徒歩＝80：15：5

駐車場の規模と配置は、以下のように設定する。

- 公園の最大利用者数 [2,000人] のうち、車両による来園者数「80%」は、1,600人と設定し、約3人/台とすると、車両台数は乗用車換算で約530台となる。
- 面積では、約3.0haとなり、これを駐車場として北と南に分散して配置する。
- 駐車場の容量は、乗用車については北駐車場 [220台]、南駐車場 [280台] 程度とする。
- 大型バスの駐車ブースについては、小・中学校の歴史の研修や遠足、文化教室の歴史講座の見学会などが考えられ、北・南の各駐車場に5台ずつ、公園全体で10台のバス駐車ブースを確保するものとする。このバス駐車場は、休日などの団体利用の少ない時は乗用車にも利用できるようにする。

4. 動線計画

本公園の動線のあり方については、次のようにとらえる。

- 動線の種類としては、車両の導入動線、歩行者動線、自転車動線、管理車両動線が考えられるが、まず歩行者の安全性や快適性を優先して、他の動線との分離を図りながら、一貫したわかり易いシステムを導入する。
- 園内の歩行者動線においては、ゆっくりと散策したり、所々で休憩ができたりにすることを考え、楽しみながら、移動できるように配慮する。
- オートバイを含んだ一般車両の動線は、自転車と区別して、園内の限られた区域（駐車場）までの乗り入れとし、歩行者空間を守るようにする。

各動線の考え方や内容について、以下のように整理する。

車両導入動線

- 県道深津・伊勢崎線からの導入経路として計画地の北西部に北口駐車場(220台)を設け、計画地南側には国道50号線及び県道今井・前橋線からの導入路を新たに設けて、これより導入を図った南口駐車場(280台)を整備する。公園内部の施設配置から北口駐車場は資料館に近く、南口駐車場は広場や水辺に近い。史跡の見学などの目的の優先する利用者は北口駐車場を利用する可能性が高いが、南口駐車場からも古墳見学コースが設定できることから、2つの車両導入動線は同等のものとして補完し合って機能するものとして計画する。
- 車両については専用の導入部を確保して、駐車場内での歩行者・自転車動線との混乱を防ぐものとする。駐車場内の歩行者動線はできるだけ車両の主動線と交差しないように設ける。
- 駐車場内部の動線としては入口広場にロータリーを設けて大型バスをロータリー内に駐車できるようにし、団体利用者の安全と場所の分かり易さに留意する。また、ロータリーに至る手前に乗用車の駐車ブースを設け、全ての動線をループ状として行き止まりのないように考える。

歩行者動線

- 外部からの歩行者の導入部については、各方面から容易にアプローチできるように考えるが、来園者に対する公園利用の案内や玄関口としての印象性も考慮して、既存の導入路を整理して数ヶ所に絞り、整備するものとする。すなわち、敷地の東西南北に各1ヶ所以上設け、特に近隣集落の集中する南側には多くする。

- 園内動線は五料沼を中心に一周できる回遊動線を設けるとともに古墳・民家園・資料館・茶店・ボート乗り場・広場・丘・水辺などを相互に結び自在に散策できる大小の園路を設けるものとする。
- はらっぱ、丘、森などでは自由に歩けるものとして、細園路はあまり設定しないものとする。ただし、湿地や森の一部には、木道を設けて歩行形態に変化をもたせ、快適に散策できるようにする。

自転車動線

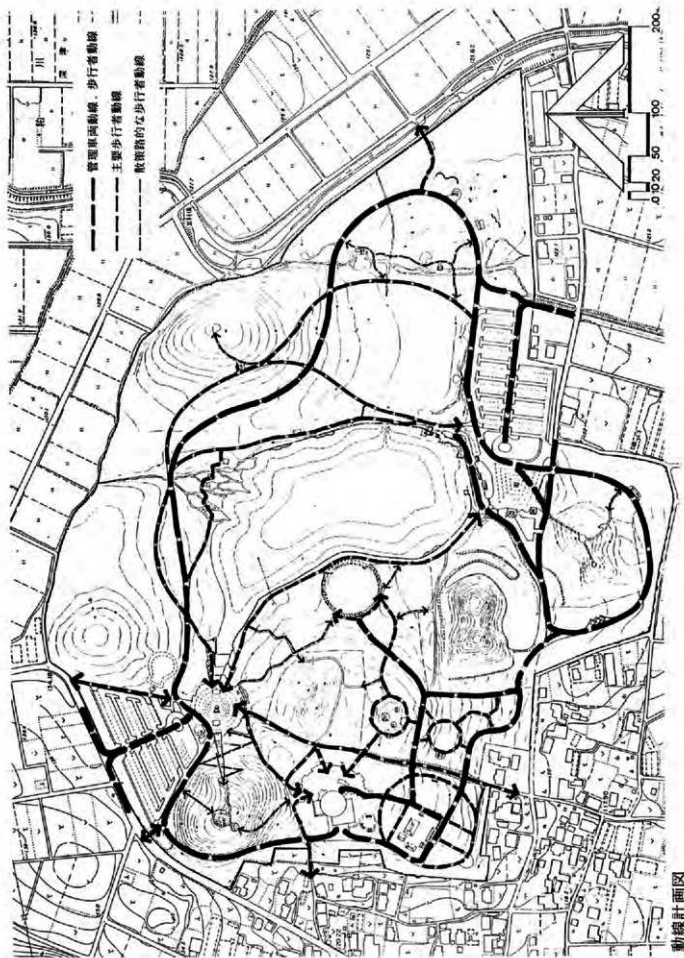
- 外部のサイクリング動線との結合は、歩行者用入口付近で行い導入するもので、内部動線も狭い道や階段などを除いて通行させるものとする。（主として管理車両動線を利用）
- 自転車の利用者が多い日には、入口近くにサインを出して、内部への進入を制限することも考え、公園入口に、自転車置場も設置する。
- 自転車置場は、公園内の利用頻度の高い資料館などにも、付帯して設置するものとする。
- 園路は歩行者との共用となるため、幅員を多少広くしておくようにする。

管理車両動線

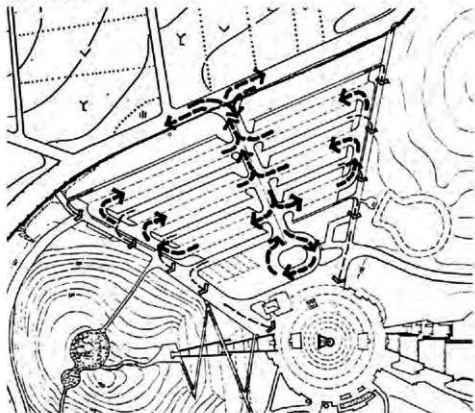
- 管理車両については、資料館・茶店への物品の搬入、沼の管理、植物の手入れ、施設の修繕・点検、ゴミの回収・清掃、イベントなどのための仮設などのための車両進入及び駐車が考えられ、これらについてはできるだけ一般歩行者に迷惑をかけずに通行できる動線を設けることで対応していくものとする。
- 管理車両動線は公園を一周する形態とする。また、管理の必要な施設への搬入路も設定する。その他の歩行者園路についても、やむを得ぬ理由の場合の管理車両の進入を想定しておくものとする。（幅員3m）
- 管理車両動線は、歩行者・自転車と車両がすれ違える十分な幅員（5m以上）を確保するものとする。

その他

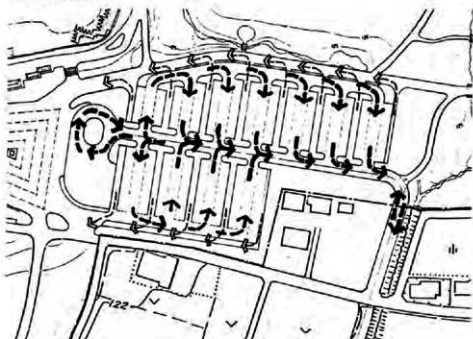
- 緊急用の消防車・救急車などの進入については、管理用車両動線及び駐車場ロータリーからの導入路を設定して、関係機関に報告しておくものとする。



北口駐車場



南口駐車場



---> 車両

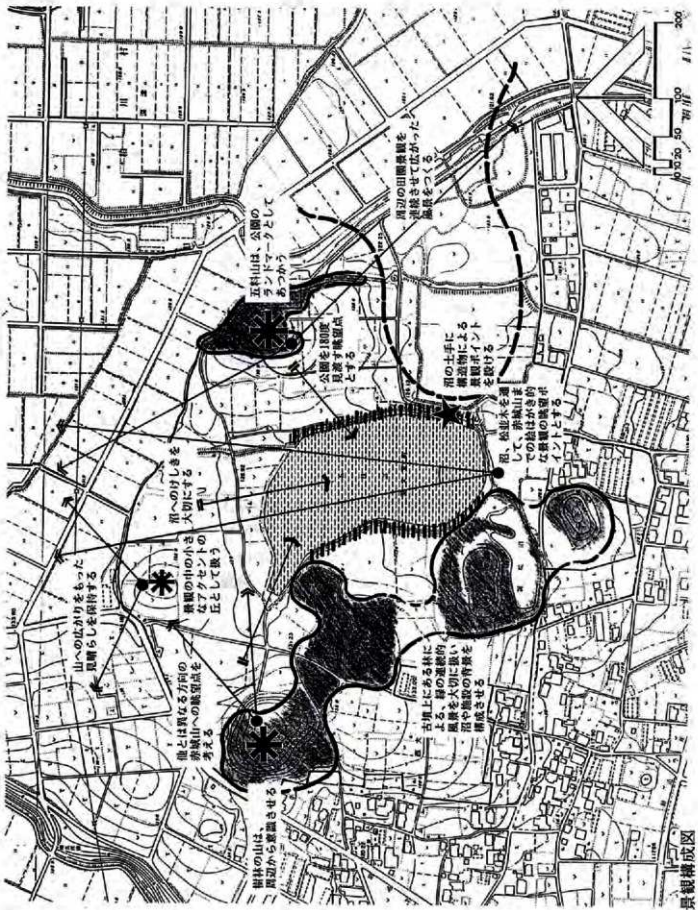
—> 歩行者

駐車場の動線

5. 景観構成

本公園の景観づくりにおいては、現況の地形や樹林・松並木を活用して、それらを景観的に意味づけをあたえながら、新たな景観の再編成を図って、本公園独自の風景をつくり出すように考える。

- 丘状の地形が連なる墳丘上の樹林は、緑の連続的な風景であり、自然な景観として、五料沼や他の様々な施設の背景を形成させるよう、大切に保持する。
- 五料沼は、南側を除き、様々な周辺の土地から望めるようにし、潤いのある水の景色として、沼の求心的な視線を演出させる。
- 敷地南東部の平坦地は、桂川越しの田園風景をとり込み、一体的で広がりのある景色をつくり出すようにする。
- 敷地の北側や五料沼沿いからは、赤城山などの山並みの景色を意識的に見せるようにし、借景による景観を演出していく。
- 五料沼や松並木の近景越しに見える赤城山への景色は、沼南部の土手に眺望ポイントを設定して、絵はがきのような風景を印象づけるものとする。
- 敷地の東西にある五料沼と石切場の山は、本公園のランドマークとして意識させ、同時に赤城山や公園を見おろす眺望ポイントとする。
- 美しい景色をつくりだす五料沼沿いの松並木も、本公園の景観ポイントとしてとらえ、設けられるボート小屋は、人工的な景観アクセントとして、視線を受け止めるように考える。



景観構成図

V. 基本設計

1. 全体計画と施設の内容

ゾーニング計画により分類された各ゾーンは、更に細かな性格分けにより、次のように愛着のもてる名称をもって、計画されるように考えられる。それらの各施設は、相互補完的な関係をもちながら、各ゾーンのイメージを高めて、公園を一体的に構成させ、大室公園としての存在を強めるものである。

■ “古墳の丘と森” ゾーン

古墳の森

- ・前二子古墳・中二子古墳・後二子古墳・小二子古墳と新堤沼からなる丘と森の空間
- ・史跡見学と学習体験・古代のロマンの感得
- ・散策・休憩
- ・自然観察～野鳥・虫（カトムシ、クワガタムシ、カナヅ）
チョウ（ジミチョウ、アゲハチョウ）・落葉拾い・ドングリ拾い・紅葉狩り・野草観察・キノコ狩り・果実採集（アザミ、タミ、カキ）
- ・イベント～写真会・写生会

岩室

- ・石切場の山の活用・山神様の保全
- ・神秘性・昔のロマン
- ・石の造形・水の音を演出する水琴窟
- ・眺望～五料沼・田園風景・赤城山への視界

■ “イベント” ゾーン

お祭り広場

- ・五料沼の松並木を背景とした石舞台を中心とした空間
- ・イベント～菊花展・サツキ展・朝顔市・ほおずき市・音楽会・演劇
- ・軽スポーツ・休憩・ピクニック

■ “五料沼と松並木” ゾーン

五料沼

- ・景勝地の景色を楽しめる様々な仕掛けをもたせた空間
- ・茶店～素朴な味わいをもつ軽食（どん、しるこ、甘酒、とろろ、餅）
- ・休憩・観賞・写真撮影・スケッチ

- ・水上レクリエーションとしてのボート遊び
- ・魚の鑑賞、バードウォッチング

■ “郷土の歴史”ゾーン

資料館・民家園・
古代住居

- ・資料館を中枢として、赤城型民家園と復原古代住居を配した文化体験の空間であり、里の風情を活かした空間
- ・村人の集いの広場～もちつき・凧上げ・鯉のぼり・七夕・花火・月見
- ・地域の文化伝承と体験～養蚕・炭焼き・はにわ焼き・地元のくらしぶりなどを見学
- ・畑～野菜畑・桑畑
- ・民家の風情～高垣(かぢね)・竹林・クリ林・果樹(柿・リンゴ・梨)

■ “里の花木”ゾーン

梅の庭

- ・人々に愛されてきた植物の観賞の空間として、春を表現する梅の庭
- ・園芸品種による様々な梅の花と春を演出する花木(サツキ、桜)
- ・休憩・弁当・散策
- ・イベント～茶会・句会・写真撮影会・生花教室・もの節句

紅葉の庭

- ・長く人々の生活を彩ってきた秋の植物観賞の空間
- ・モミジの紅葉狩り、秋の実の観賞
- ・休憩・散策

■ “草原と風”ゾーン

風のわたる丘

- ・おだやかで、開放されたのびやかな草原の丘
- ・多目的な利用～ピクニック・散策・ジョギング・草の上に寝ころがる・軽スポーツ
- ・イベント～音楽会・月見の会・凧上げ
- ・風になびくスキの原・風のパノラマをつくり出すオブジェ

■ “野草と花”ゾーン

さくら草の溼原

- ・ 溼潤地を生かして、自然との触れ合いをもたせた空間
- ・ 植物観賞～水辺の草花（さくら草・ギボウシ）
- ・ 水鳥のバードウォッチング、昆虫採集
- ・ 野草（セリ）採集

花の丘

- ・ 色とりどりの草花や桜を楽しめる丘
- ・ 桜の花見・ワイルドフラワーのお花畑観賞
- ・ 休憩・散策・ピクニック
- ・ 眺望～五料沼や松並木・ワイルドフラワー

■ “はらっぱと小川”ゾーン

みんなのはらっぱ

- ・ 小さな池・小川のある平坦で広い草原
- ・ 多目的利用～軽スポーツ（簡単な球技・ジョギング）
ピクニック・散歩
- ・ 子供の遊具の遊び・水遊び
- ・ 水生生物の観察～トンボ、ドジョウ、タニシ、メダカ、カエル、ミズスマシ、ザリガニなど

■ “エントランス”ゾーン

時の広場

- ・ 五料沼の水を予感させた北のエントランス・プラザ
- ・ 印象性～水時計の造形化
- ・ 休憩・待ち合せ・公園のインフォメーション

水鳥の広場 (南口広場)

- ・ 管理運営の事務所をもつ南のエントランス・プラザ
- ・ 公園案内～パンフレット配布・利用の案内
- ・ 休憩・待ち合せ・管理のためのワーキングヤード

北口駐車場 南口駐車場

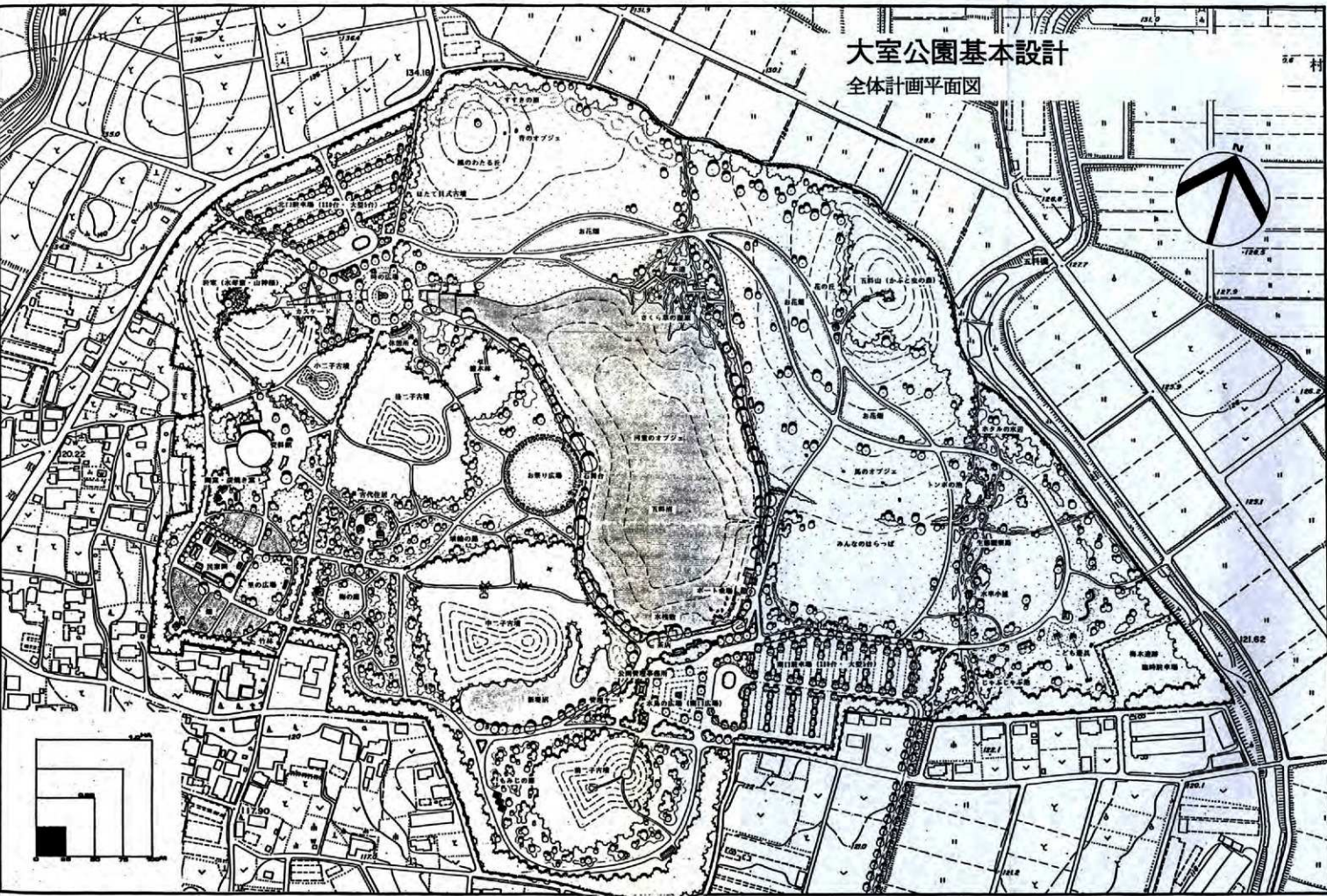
- ・ 北口と南口の駐車場は、それぞれ乗用車220台、280台
バス5台ずつの容量の確保

本公園全体が受けもつアクティビティーを整理すると、次のように予想される。それぞれのアクティビティーは、様々な空間や、施設の中で場所ごとに、異なる状況をもって、満足されるように計画していく。

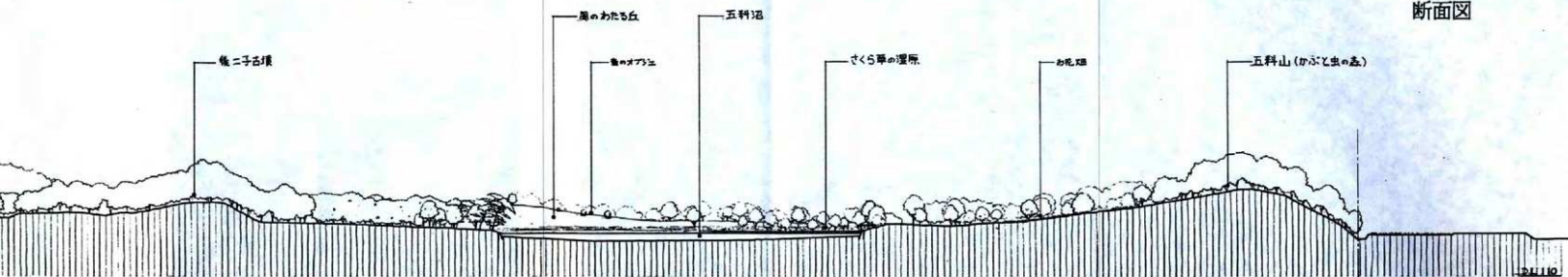
	アクティビティーの内容	展開される空間（施設）
知る	古代学習、研究	古墳、住居跡、資料館、古代住居
	郷土の文化	赤城型民家、桑畑、炭焼小屋、陶釜、水車小屋
	イベント（見、コサト、繡）	里の広場、お祭り広場、風のわたる丘、花の丘
	自然現象	水時計、風のわたる丘、水琴窟
	観察	花の丘、はらっぱ、古墳の森、五料沼、新堤沼、五料山
遊ぶ	水あそび	カスケードの流れ、ボート乗り場、はらっぱ
	生物との触れ合い（採集）	はらっぱ、流れ、さくら草の湿原
	木製遊具あそび	みんなのはらっぱ
	伝承の玩具（竹馬、竹とんぼ、凧等）	民家園
	イベント（茶会、花見 他）	お祭り広場、民家園、梅の庭
憩う (見6)	鑑賞	五料沼、赤城山(借景)、田園、松並木、風のわたる丘、花の丘、梅の庭、新堤沼
	食べる	茶店、民家園
	ピクニック	風のわたる丘、はらっぱ、花の丘
	休む	四阿、パーゴラ、デッキ
運動	軽スポーツ	はらっぱ、風のわたる丘、お祭り広場
	歩く	園路、はらっぱ、花の丘、風のわたる丘、古墳
	ジョギング、自転車	園路
	ボート	五料沼

大室公園基本設計

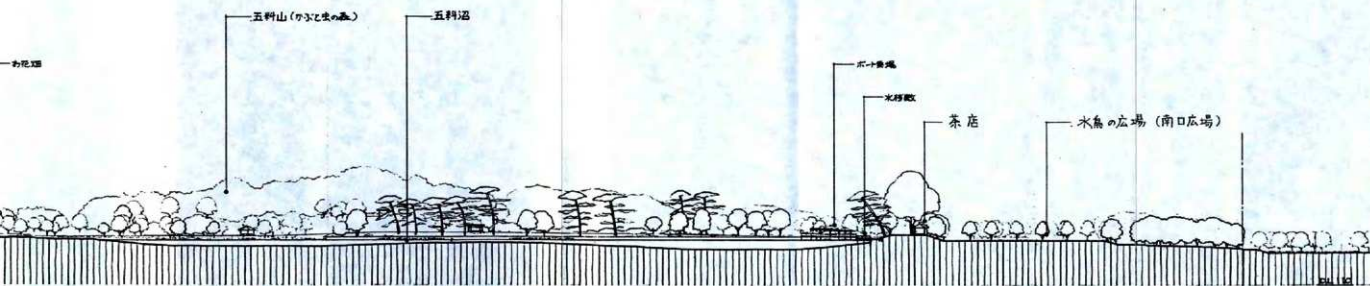
全体計画平面図



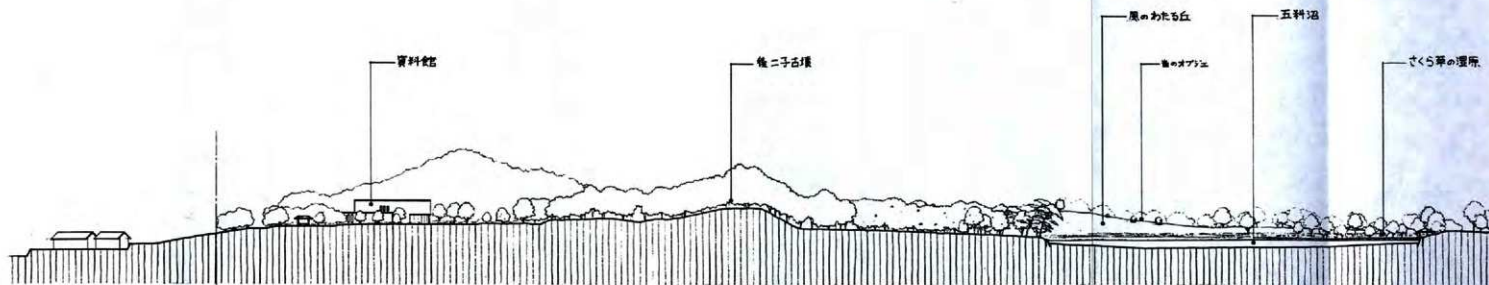
断面図



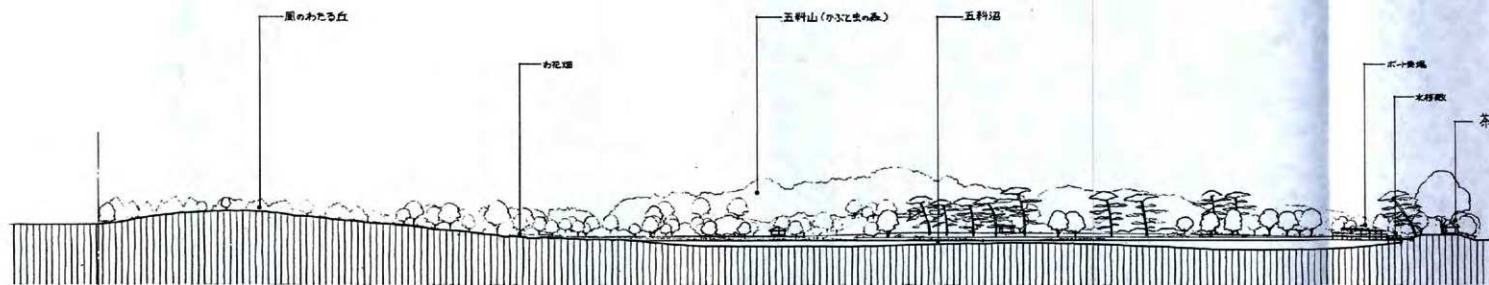
断面図 東西



断面図 南北

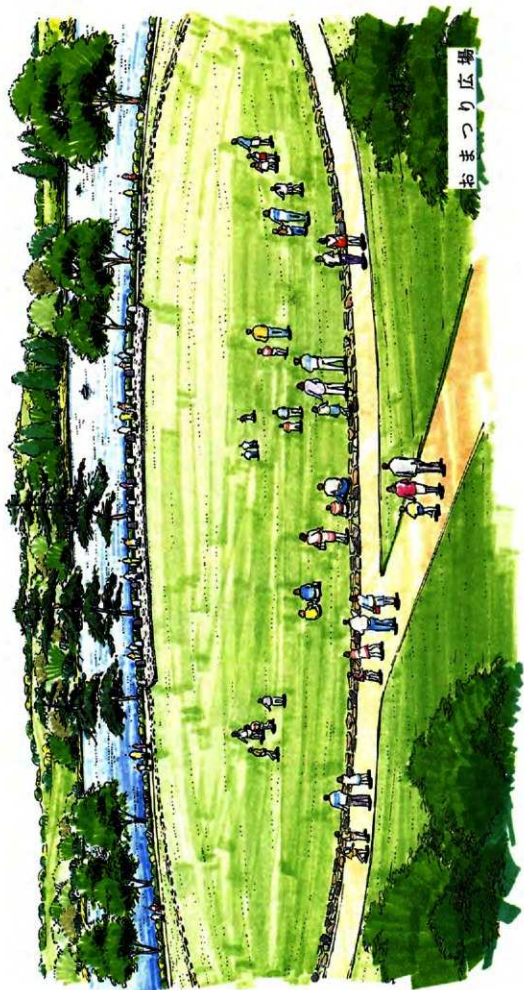


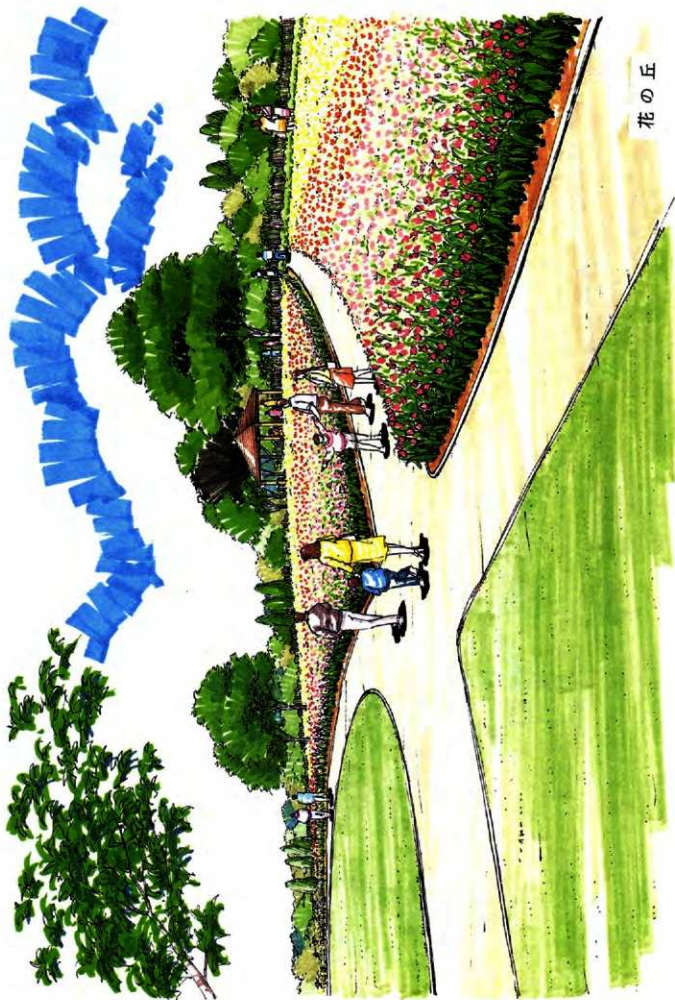
断面図 東西

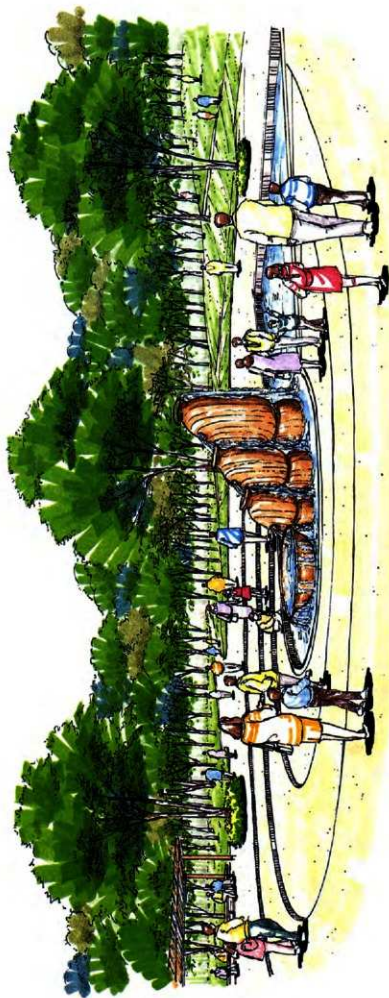


断面図 南北

おまつり広場







時の広場（北口広場）



水鳥の広場（南口広場）

2. 自然の演出

本公園は、特に豊かな自然が保たれていることから、今後もこれらの自然環境を保全し、様々な生物相の維持を図っていくことを、公園の利用性ととともに重要視していかなければならない。そこで、現在見られる生物や今後繁殖・招致したい生物について考察を加え、生態系を充実させるためのバックアップの方法を検討していく。

野鳥

現在飛来しているサギ類・カモ類・カワセミ・ヒバリなどについて、新堤沼についてはできるだけ現状のままに残してカワセミ・カモ類・サギ類の安心して休める場所とする。五料沼はボートなどの導入により水鳥の飛来の減少が考えられるが、ボート貸出しを曜日や季節や時間帯で制限することで緩和を図る。公園東側の流れや小池への飛来は、食餌植物や隠れ場所になる樹木植栽により増やすことができるものとする。また池の中で飼う魚の種類を変えることにより、カモ類・サギ類を更に呼び寄せることができると考える。森への飛来についても、巣箱や食餌植物によって招くようにする。

湖沼のような水辺に集まる鳥類は単調な湖岸より水生植物や湿生植物、さらにヤナギ、ハンノキなどの水辺林が広がる水域ほどその種類は多くなり、その群集構造にも多様性を増す。現在、アオサギ、カルガモが多く見られるが、小魚をはじめとする水生動物を豊富にすることで、他のサギ類・カイツブリなど、一層数多い定着が見込まれる。ヨシ、マコモの抽水植物が群落を形成するようになると、将来オオヨシキリ、バン、クイナなども来てくれると思われる。定着のための環境整備は先にも記した通りであるが、休息場所として日当たりのよい池北側一帯を野鳥の休憩所的な区域として設定することが望ましい。

魚類

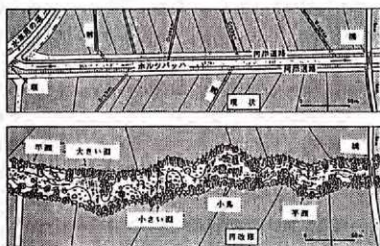
現在、五料沼・新堤沼には養殖のコイが大量に飼われているため、クチボソなどの数種が自然繁殖しているが量は少ないと考えられる。公園整備後はコイの養殖は行われなため、コイ以外のタナゴ・ウグイ・フナ・ハヤ・クチボソなどの種類を増やして野鳥を呼びよせるものとする。池の中でも昆虫の幼虫や小さい魚類と大型魚の住み分けが必要と考えられる。また水生植物の生育によりプランクトンなどの自然餌が増えるため、五料沼には水中・水辺の植生の創出を図っていく必要がある。

公園東側の水系（小川）には、メダカ・カエル・ザリガニ・タニシなどの生物を生息させていくものとする。

生息目標種として、カダヤシ、メダカ、クチボソ、オイカワ、ウグイ、フナ類、ドジョウ類が考えられる。生態的に生息不適な種はブルーギル、ブラックバスなどである。

魚にとって止水域、流水域でも沿岸帯、岸辺は重要な場所であり、特に水草地帯は最も必要とされる場所である。水草地帯は多くの魚の産卵場所（直接茎に産卵する魚も多い）であり、稚魚、成魚の成育、生活場所となる。また様々な微生物が繁殖して、餌となり、さらに隠れ場所、休息場所ともなる。従って水草群落を多様に生育させ、保護していくことが魚にとって極めて大切な要素となる。止水域では先に記したとおり、特に底の環境の多様性が求められる。流水域では細流でも、石やれきを配した、いろいろな流れを造り、瀬、淵、よどみや周りに水辺林があることが魚にとって大切である。

ドイツに於ける河川改修例



ホルツバッハ川の再改修(ドイツ、ラインラント・ファルツ州)。まっすぐに改修されていた河道の橋をひろげて流れを蛇行させ、瀬と淵、および河川の橋生(樹木と草本)を復元した(オットー、A.,1906による)

トンボ類

現在見られるトンボ数種については、トンボの産卵場所・ヤゴの生育場所を確保することにより今後とも生態の観察や飛ぶ姿を楽しむことができると考えられる。種類によって大水面、小水面、アシ、ヨシ、ガマなどのある湿生地、砂地、森など生息する場所が違うため、それぞれに対応した多様な環境を造り、ある程度保護する形をとれば、ギンヤンマ、シオカラトンボ、アジアイトトンボ、ミヤマアカネ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボなどの20種類近くのトンボが生息できると考えられる。

各々の水域に次のような環境を造ることで様々なトンボが定着すると考えられる。

- 五料沼・・・水生植物の繁茂する開放的な広い水面の池
シオカラトンボ、ウチワヤンマ、ギンヤンマ、イトトンボ科各種
モノサシトンボ、コシアキトンボ、ウスバキトンボなど
- 新堤沼・・・抽水植物の繁茂する樹林の中の池
アオイトトンボ、オオアオイトトンボ、クロスジギンヤンマ、ヤブ
ヤンマ、タカネトンボ、オオシオカラトンボ、ヒメアカネなど
- 小川近くの小池・・・水生植物の繁茂する開放的な小池
シオカラトンボ、ハラビロトンボ、シオヤトンボ、マイコアカネ、
マユタテトンボ、ノシメトンボ、モノサシトンボ、イトトンボ科
各種 など
- 流 れ・・・泥、小石、れきの川底を持つ流れ
ミヤマアカネ、コオニヤンマ、オニヤンマなど
- 湿 地・・・水深5～10cmの水たまりで土の畔で囲われた湿地
アジアイトトンボ、シオカラトンボ、シオヤトンボ、ショウジョ
ウトンボ、アキアカネ、ナツアカネ、ヒメアカネ、マユタテアカ
ネ など

トンボ類は飛翔力、生命力も強いので生息環境を整えれば必ず定着してくれるものと考えられる。

ホタル

ホタルは川の源流部のような自然度の高い貧腐水性の水域には余り多く発生しない。かえって人里近くの水路など少々人為的影響を受けた水環境に多く発生する。園内においても農業汚染がないならβ-中腐水性の水質を維持し周辺環境を植生豊かにすると充分発生の可能性がある。水路の両側又は片側にヤナギなどの植栽地を形成させ、また蛹化場所として土手を造り、乾燥しない気孔を有する構造のものとする。水際にはコケのついた石や水に洗われた木の根、草の根などが重なっている状態が良い。水の流れは早くても遅くても好ましくないようで、流速は、0.1~0.3m/sec程度とし、川幅は最低1m、川底は小石が多く砂と泥が混じっている状態を造る。周辺は木、草が生い茂る環境が必要である。

カエル類

湿地、水たまりにアマガエル、ヒキガエル、トノサマガエルなどが生息することが考えられる。カエルの頭が水面上に少し出る程度の水田風の湿地を多く造るとよい。

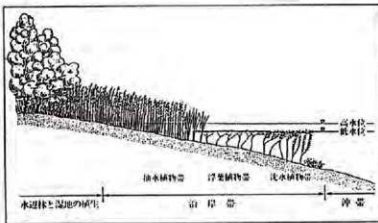
その他の昆虫

カブトムシ、クワガタなどについては今後、積極的に導入させる場合には、ある程度手間をかけて飼育することが必要である。生育にあたっては、雑木やヤナギなどの明るい樹林を造り、また、柵の中で、おが屑などで孵化させた幼虫を育てていくようにする。このほか、蝶やアメンボ、ゲンゴロウ、ザリガニなど多くの昆虫類の生息が考えられるが、全般的に水辺、砂地、岩、樹林など多様な空間を創出していくことにより、自然に発生してくるものと考えられる。保護についても子供達に大量にとられないように環境教育をする程度で維持できるものとする。

水草群落

水草群落は池、流水において、非常に重要な生態的位置を占める。ヨシ、マコモなどの抽水植物は、水中の茎の部分に沢山の藻類や細菌が繁殖し、植物そのものとともに群落全体が水の浄化機能を果たすとともに、その群落の中では魚やエビが産卵、成長し、表面の着生生物は彼らの餌となる。また、カイツブリ、バン、クイナ、カルガモ、オオヨシキリなどの水鳥にとってもヨシ、マコモの群落は大切な巣や隠れ場所となる。トンボにとっても産卵、羽化場所として大切である。更に、枯れた茎にも微生物が住みつくため、水鳥や魚の餌となる。浮葉植物、沈水植物については、水中に酸素を放出し、栄養塩類を吸収するし、水中では多様な空間を形成するため水生動物に重要な生活場所を提供する。以上のように水生植物群落は水環境の豊かさをつくる上で欠かせない大切なものであり、保全・育成することが望ましい。

- ・抽水植物……ヨシ、マコモ、ガマ、フトイ 他
- ・浮葉植物……アサザ、ヒツジグサ、ヒシ 他
- ・沈水植物……エビモ、ヤナギモ、クロモ 他



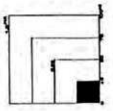
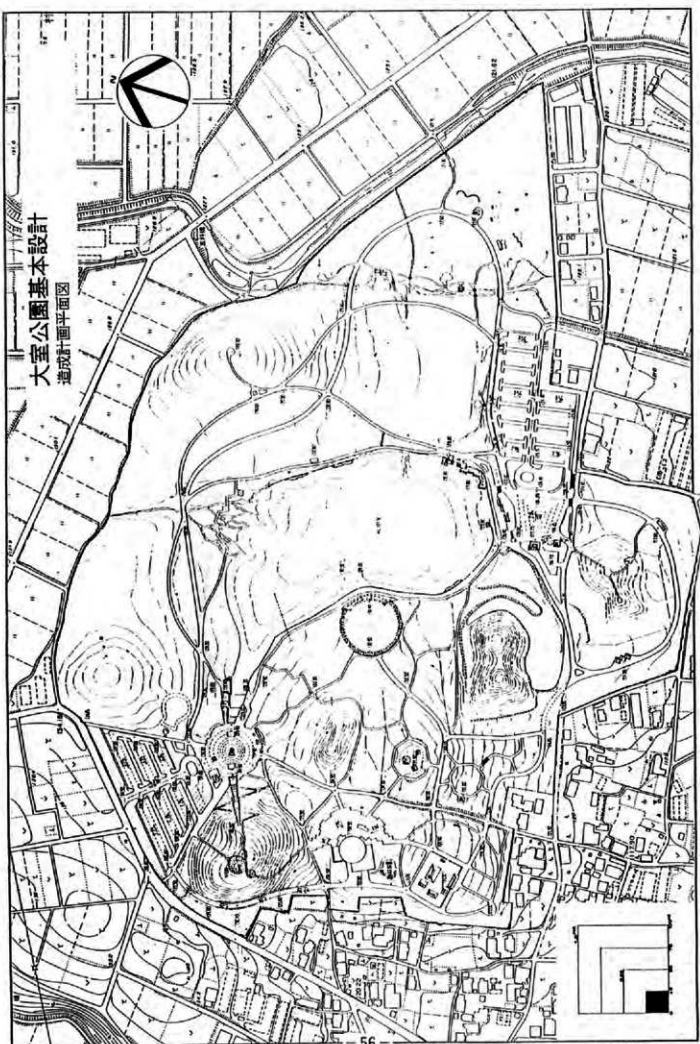
自然度の高い湖岸帯にみられる連続的な地形と植物群落

3. 造成設計

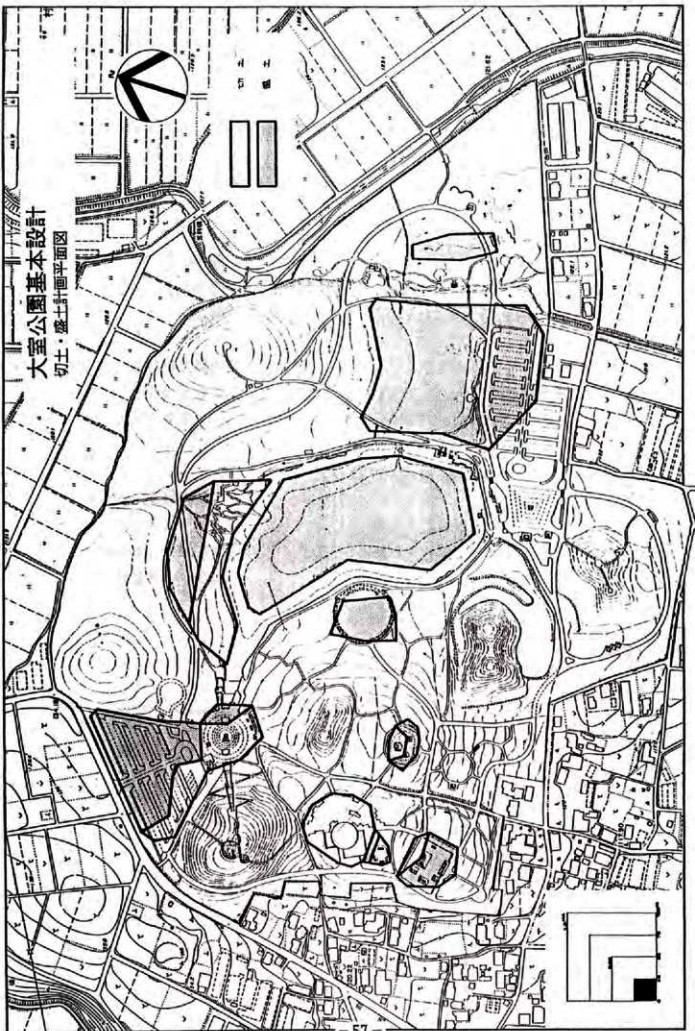
- 一般的に現況の地形に近い形で公園整備を行い、樹木伐採や水系の変更も最小限に押さえるものとする。
- 切盛土の発生する場所は、五料沼東側のはらっぱの段差解消のための盛土、南口駐車場の造成のための切土、五料沼西側の広場と堤との段差解消のための盛土、五料沼北岸の護岸のスロープ化、五料沼底の周囲の底上げ盛土などとする。
- 集計すると、以下のようになる。

発生場所	切土量	盛土量	土量収支
北口駐車場・時の広場	1,000m ³	1,000m ³	± 0
五料沼北岸	1,300m ³	500m ³	+ 800m ³
五料沼(底)	—	10,000m ³	-10,000m ³
南口駐車場・みんなのはらっぱ	—	20,000m ³	-20,000m ³
資料館周辺	3,000m ³	—	+ 3,000m ³
お祭り広場	—	1,500m ³	- 1,500m ³
民家園	500m ³	2,000m ³	- 1,500m ³
古代住居	500m ³	1,000m ³	- 500m ³
計	6,300m ³	36,000m ³	-29,700m ³

大室公園基本設計
造成計画平面図



大室公園基本設計
切土・盛土計画平面図



4. 園路広場設計

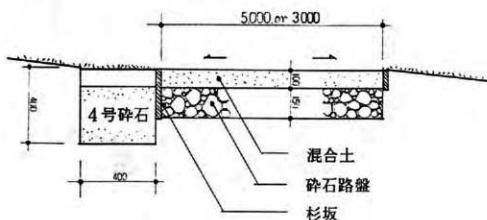
- 園路の形態については、動線計画を受けて、幹線園路・支線園路・散策園路をそれぞれの規格で設けるものとする。管理車両用園路は概ね幹線園路と兼用するものとして考える。
- 園路幅員は、以下のようにする。

	幅 員	
幹 線 園 路	5.0M	(車両+自転車+歩行者)
支 線 園 路	3.0M	(自転車+歩行者+歩行者)
散 策 園 路	1.5M	(歩行者+歩行者)

- 園路の舗装は広場の舗装と調和したものとして、自然に溶け込むようなテクスチャー・色あいとする。強度的には、管理車両や自転車の通行もあるため、丈夫なものを選定する。

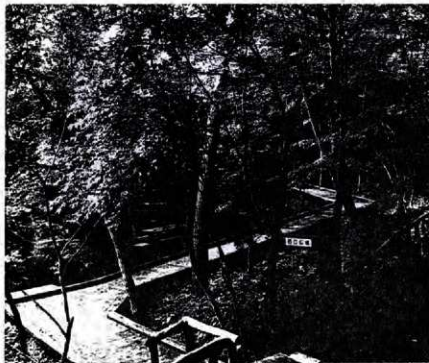
幹線園路・支線園路

- アスファルト混入の土舗装とし、縁石はあえて設けない。
- 表面は、横断方向の両側に振り分け勾配（キャンバー）を設けて、山側には素掘側溝を設ける。



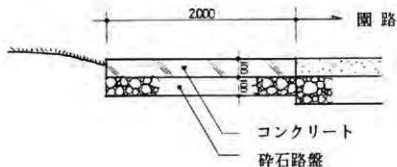
散策園路

- 踏み分け道を多少歩き易くした程度の簡易な構造を考え、現況の土を整形・転圧をする程度とする。
- 水がたまりやすく、排水のよくない箇所については、砂利や木のチップを敷設する。
- 樹木や湿地の一部には木の質感を生かした、質素な木道を設け、散策路とする。



自転車置場

- コンクリート舗装、刷毛引仕上げとし、横断方向に幅2mとする。

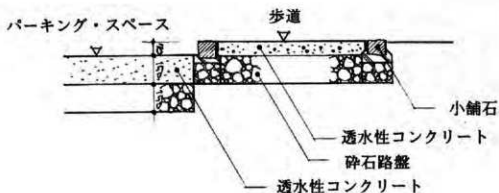


駐車場

- エントランス部分からの進入路は、透水性アスファルト舗装（開粒アスコン）
パーキングスペースは、透水性コンクリート（粒径13mm）とし、小舗石をボー
ダーとして、アクセントとする。
- 歩道部分は、透水性コンクリートとし、車道部分と区別する。



透水性コンクリート舗装の表面

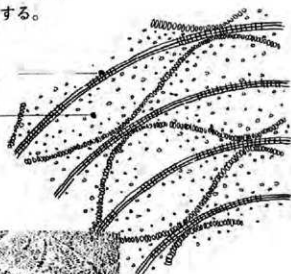


時の広場、水鳥の広場（南口広場）

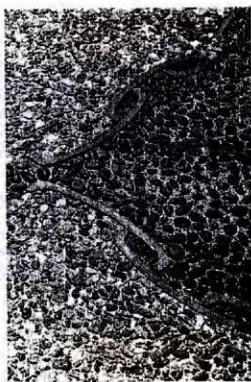
- 自然素材による、個性的なひろばをそれぞれに演出する。
- 時の広場は、玉砂利舗装、小舗石による円形のパターンとする。

小舗石ボーダー

玉砂利舗装面



- 水鳥の広場（南口広場）は、砂利洗出し舗装（2種類の種石）、瓦のボーダーにより、台形のパターンを表現する。

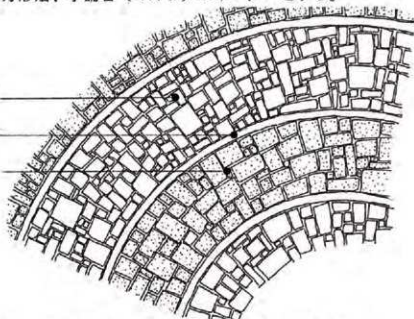


瓦のボーダー

資料館前広場

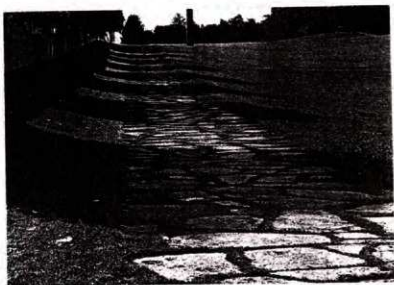
- 資料館前の広場は、重厚でおちつきのある空間を演出する。
- 舗装材は、自然石の方形貼、小舗石（ミカゲ）のボーダーとする。

丹波石 方形貼
小舗石ボーダー
砂岩系自然石方形貼



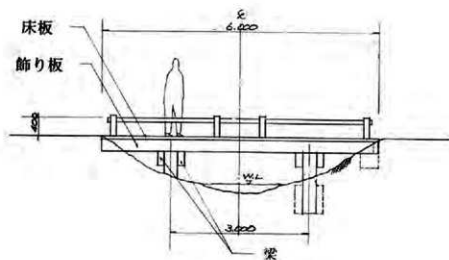
お祭り広場

- イベント開催を考慮し、石舞台に対して求心性をもった円形で表現する。
- 芝生の広がりと連続するような芝目地のある自然石（乱形）舗装とし、石を埋め込む。

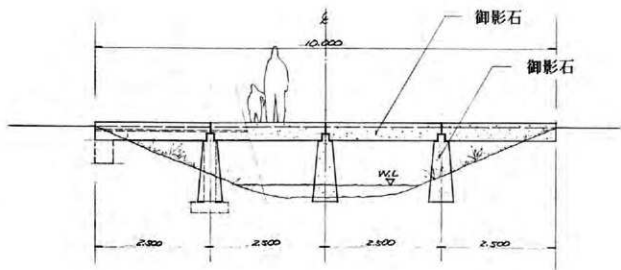


橋

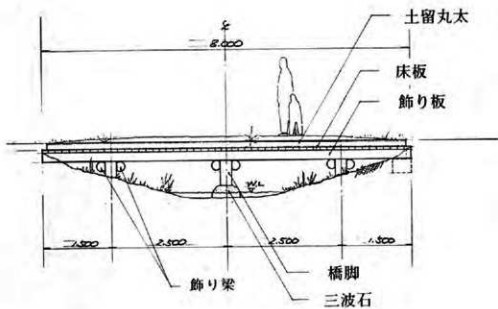
- 橋は、幹線沿いに木の橋、石の橋、土の橋を設け、来園者に対して印象のもてるように演出する。
- それぞれの橋は、土地のローカルティーを模した簡易で素朴なイメージを持たせていく。
- 橋の手摺りも控え目で簡素とし、視界を妨げないようにし、広がりのある風景の中で違和感を与えないように配慮する。



木の橋



石の橋



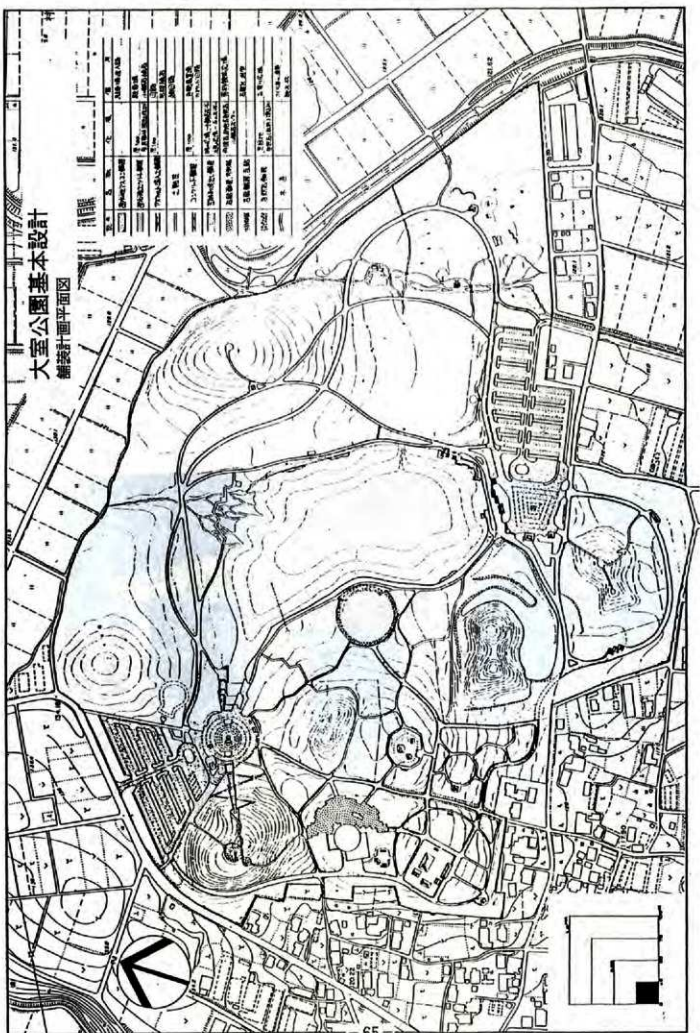
土の橋

大室公園基本設計

鋪設計画平面図

1:1000

項目	内容	面積	備註
敷地面積	約 100,000 ㎡		
建築面積	約 10,000 ㎡		
植栽面積	約 50,000 ㎡		
舗装面積	約 20,000 ㎡		
水辺面積	約 10,000 ㎡		
その他	約 10,000 ㎡		



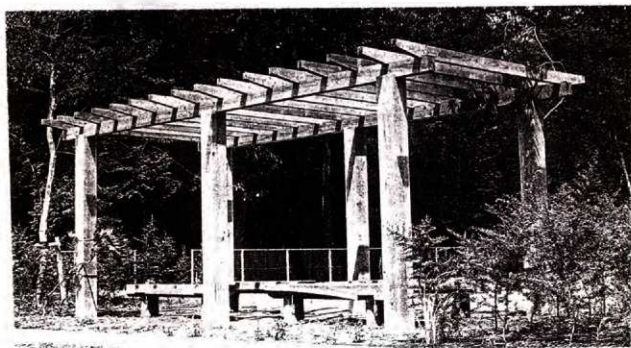
5. 修景設計

5-1. 修景施設

- 修景施設として、パーゴラ、藤棚、カスケード、水時計、岩室、などを配して、景色に深みと印象性をつくりだすように考える。
- 特殊な施設は、当公園のアイデンティティー（大室公園らしい他とは異なる特色）を生みだすように個性化を強め、他のものはさりげないポイントとして、風景を飾るようにとらえる。

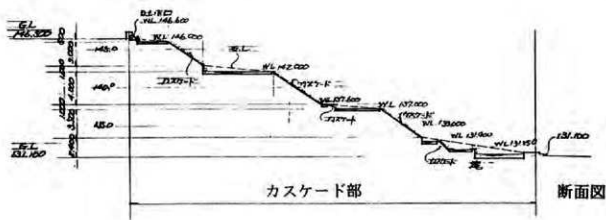
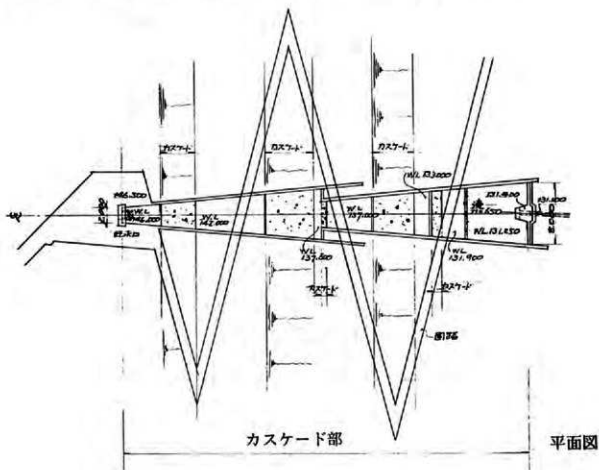
パーゴラ・藤棚

- パーゴラ・藤棚は、人の憩う場所に対して、居住性をもたせ、かつ、景色のポイントとなるようにとらえていく。
- これらは、周囲と調和をもち、親しみを感じさせるような木製とし、いつまでも飽きのこないようなものを考える。



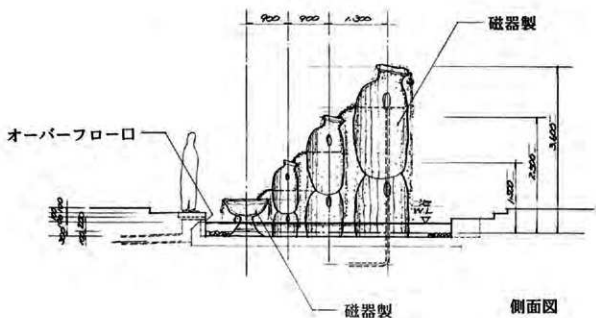
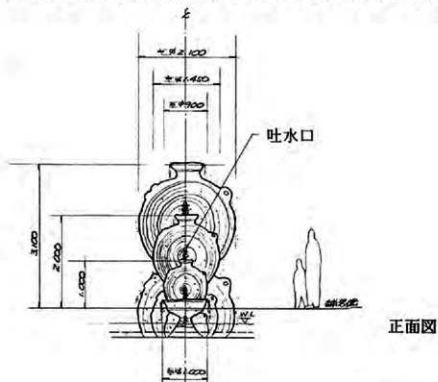
カスケード

- カスケードは、後二子古墳の北西の山から吐水された水が、段状の滝を経て、“時の広場”の池を經由し、更に滝となりながら、五料沼に流れ込むような壮大な流れである。
- 何段にもなる落水による水の造形とその水音により、来園者に水のシンボリックな景色を印象づけるようにする。
- 水は五料沼からの循環とし、水質の浄化にも役立てるようにする。



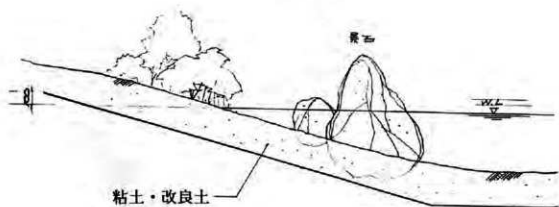
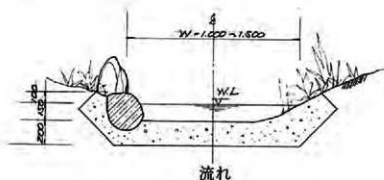
水時計

- 時の広場の求心的施設として、水を利用した個性的な施設（モニュメント）である水時計を設ける。
- 水時計は五料沼から循環された水を、埴輪の形態を模した3つのつぼのうちの最大形のものに吐水させ、順次中・小のつぼに落水しながら最終のかめに入り、ここで、内側に刻まれた目盛りで時間が計測できる仕掛けとする。水の循環は、タイマーにより定期的にポンプアップさせるが、そのポンプからの水量にかかわらず、最終のつぼの側面から流れる水量が、ほぼ一定となってくることから、かめに入る水の水位によって、時間の計測ができるようになるものである。



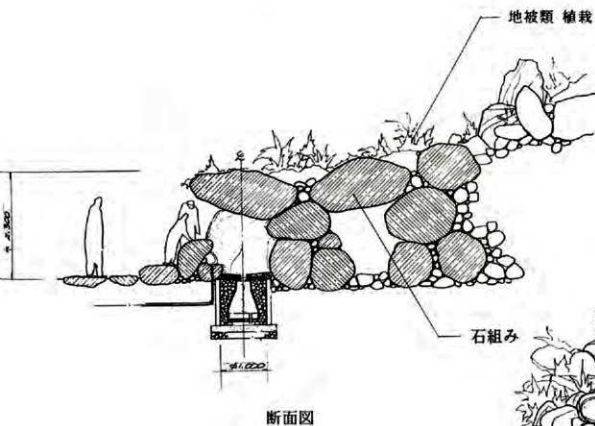
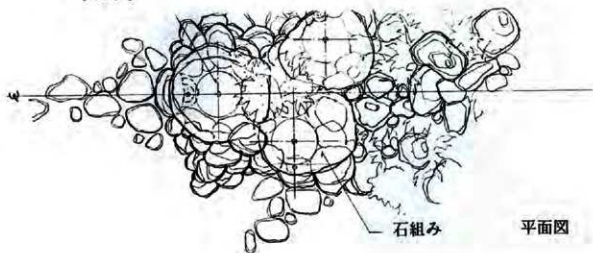
流れ・池

- “みんなのはらっぱ”にある流れ、トンボの池、じゃぶじゃぶ池については、従来の流水を利用しながら、来園者の水遊びが可能のようにし、かつ、植物や小動物が生育・生息できるような構造として計画する。
- 流れは水深150mm程度で、現地の土を利用しながらの簡易な防水を施したものとする。
- 流れは魚などの水生生物が自由に上下双方向に移動できるように、堰や横断工作物は極力設けず、また、極端に水量の少ない水路や滝状に落下する流入口も造らないものとする。
- ホタルを生息させる流れは、水深50cm、川幅1m程度にして、流速毎秒30cm以下のゆったりとした流れとし、素掘りの急傾護岸とする。
- 池は最深部300～500mmをもつ、ゆるやかなスロープの草止護岸とし、池床の仕上げは現地の土を利用する。



岩室

- 敷地北西の山にある、かつて石切場であった窪地に、樹林に埋没された静寂で不思議な空間を利用して、音によるフィクショナルな仕掛けを設ける。
- 露出された岩や石を用い、新たに石室のような室を構築し、水琴窟を設置して、水の神秘的な音を演出する。
- 窪地には石とあいまって、シダ類、草本類、ツタ類により、特異な景色をつくりだす。



オブジェ

●馬のオブジェ

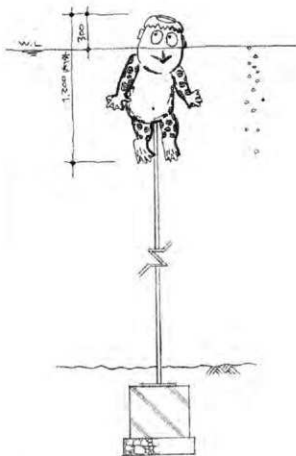
- ・ブロンズ製として、可能な限り具象表現する。
- ・大きさは親馬と子馬の2つのタイプ。
- ・形態は、遠くを見る姿と草を食べる姿の2つのタイプとする。



	親馬	子馬
L	2300	1600
H	1400	1000

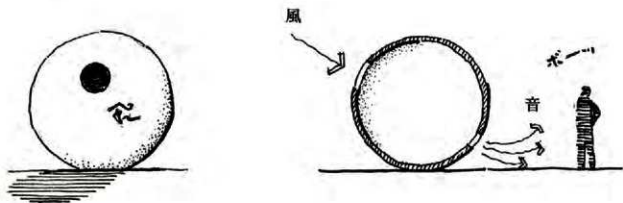
●河童のオブジェ

- ・誰もが楽しめる表情豊かなものとする。
- ・池の水面から300mm程顔を出す形態とする。



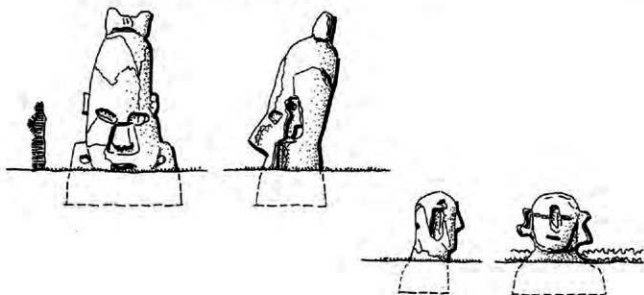
●音のオブジェ

- ・風のわたる丘の広がりある草原に、アクセントとなるようなオブジェを設ける。
- ・オブジェは、風、特に赤城おろしの北風により、音を生みだすようなしかけをもたせる。
- ・オブジェは、大きさの異なる球形とし、音の違いを体験できるようにする。



●埴輪のオブジェ

- ・古墳周辺の埴輪の路や、時の広場の入口には、埴輪をモチーフにしたユーモラスなオブジェを配して、道しるべとしたり、ゲートを示したりさせる。
- ・陶製の埴輪のオブジェは、割れ目や欠損した部分をあえてつくり、出土品としてのリアリティーをもたせていく。

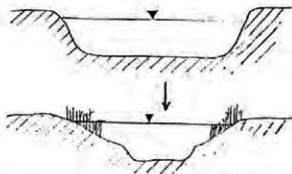


5-2. 五料沼等の水辺空間の修景

- 五料沼・新堤沼は、現在ある様子を保持することを基本として、その原風景を大切に、人工的な改変を最小限にとどめる。
- これらの沼は、特に鳥類・魚類・昆虫類・両生類等の野生生物の成育環境である点も考慮して、これらの環境整備と結びつくような修景計画であることも留意していく。

五料沼

- 北半分の護岸は現在の石積みの上にたたき粘土等により緩斜面とし、一定の面積に水生植物が繁茂できるようにする。



- 特に、水質浄化の機能をもつヨシ・マコモなどの植栽を図る。沼底も現在より緩斜面とすることで、平均水深1.5~2.0mにする。最大水深は現状か、さらに掘り下げ、沼底に変化をつけ、水環境の単一化を防ぐ。
- ヘドロの堆積が考えられるので、底干し時に浚渫し、山砂等に入れ換える。粒子の小さい土壌は濁りの原因となるので使用しない。
 - 北側の水路から流入する場所は幅を広げ、三角洲状にし、土壌を露出させる。草木が繁茂しないように、ある部分はゴムシートを土中に敷き、穴をあけてスポット状に草が生育できるようにする。
 - 水位を一定にするため、排水部に（現在の水抜きに加えて）越流側及び水路を設ける。

5. 建築施設設計

建物は、管理事務所・茶店（五料茶屋）・便所・四阿・炭焼き小屋・陶窯・水車・ボート小屋・ボート乗り場などがあり、これらは、当地の里山性にちなんで、農家風でクラシックな形態や素材のものとする。

管理事務所・茶店(五料茶屋)・便所

- 入母屋の形態を模した外観をもたせ、平屋、銅葺きまたは杉皮葺き、板葺きとする。
- 管理事務所は、本公園の通常の巡視・安全指導・一般事務のほかに、催し物の運営プログラムの企画・広報や案内などの公園の利用上の便宜をつかさどるものとして、来園者に親しまれるオープンな雰囲気をもつものとすることに留意したい。
- 茶屋については、日本古来から親しまれてきた、だんご、おしるこ、トコロテン、甘酒、田楽などを楽しめる風光明媚な名物茶店（五料茶屋）として設定し、和風で昔なつかしいイメージの建物とする。



- 便所は、資料館内のほかに、屋外便所3ヶ所を考え、敷地の中で比較的人の集まり易い、偏りのないような位置に設ける。
- 各便所の規模は、以下のように算定する。

“都市公園利用実態調査 S63年度”に基づいて

総合公園 最大時在園者数を求めると、

$$\text{平日} \quad 54 \text{人/ha} \times 20.0 \text{ha} = 1080 \text{人}$$

$$\text{休日} \quad 96 \text{人/ha} \times 20.0 \text{ha} = 1920 \text{人}$$

便所の回転率を 1/30~1/80人 平均 1/55人 とすると、

$$1920 \times 1/55 = 34.9 \approx 35 \text{人}$$

各便所の利用率を想定すると、

資料館	30%	10人
便所A	30% (南駐車場)	10人
便所B	25% (北駐車場)	9人
便所C	15% (みんなのひろば)	6人

よって、各便所の便器数は、男(大・小) : 女 = (0.2 : 0.8) : 1の比率に加えて、大便器は、故障時も考慮して、最低2器以上と考え、次のようにする。

資料館	男 4立2穴	女 5穴	(他に職員用が必要)
便所A	男 4立2穴	女 5穴	(")
便所B	男 4立2穴	女 5穴	
便所C	男 3立2穴	女 3穴	とする。

ただし、身障者用トイレを4ヶ所に1器ずつ設置する。

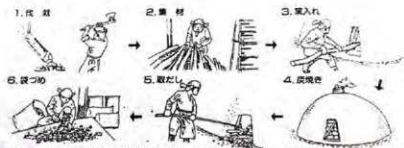
四 阿

- 素朴でシンプルな形態とし、さりげなく配慮する。
- 周辺に対して、オープンとし、自由に入れるようなものとする。

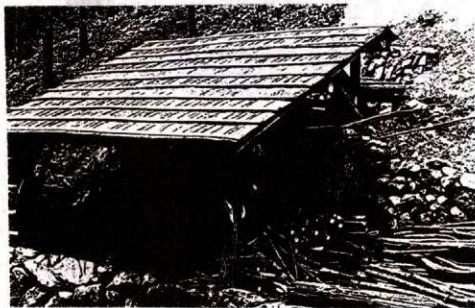


炭焼き小屋・陶窯

- 土地に今まであったような形態を模して、実用性のあるものとする。
- 陶窯と炭焼き小屋は併用されるようにする。



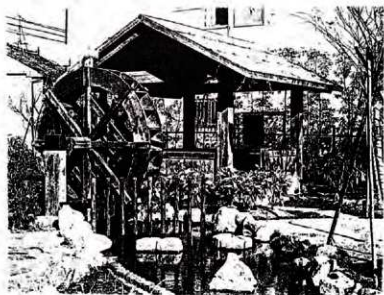
炭には一日(約24時間)で焼く白炭と、約一週間かけてむし焼きにする黒炭とがあります。



炭焼き小屋

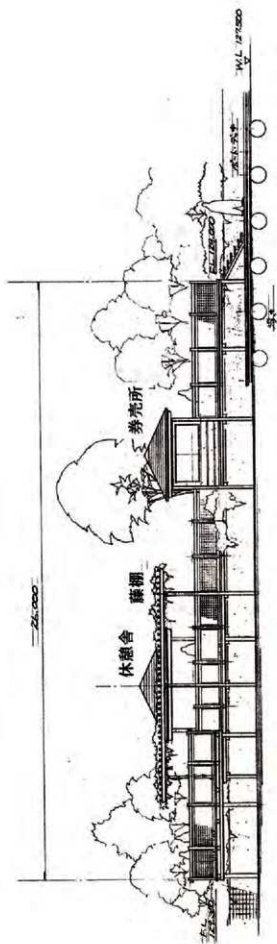
水車

- みんなのはらっぱの小川に水車を設け、のどかな田園の姿をあらわす。
- 水車は、米つきとしての実用性をもたせる。

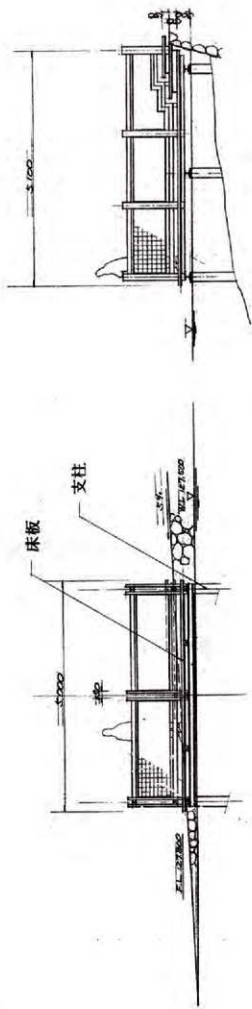


ボート小屋・ボート乗り場・水栈敷

- ボート小屋・ボート乗り場は、五料沼の南に設置し、水上のデッキに四阿・藤棚も併設させる。
- ボート乗り場に対しては、発売所の小屋を經由して、入場するようにし、ボート場のデッキは、水位の変動に対処できるフローティング式とする。
- ボートは、通常20艘、停泊させ、利用に供させるが、券売所のデッキ下には、予備の数艘を収納させるようにする。
- 券売所は、係員によるボートの安全確認ができるように、視界を広くもてるように配慮し、管理機能を持たせる。
- 水栈敷は、五料沼南端の園路沿いに、水面に近づけてウッドデッキとして設け、親水性と、ローアングルの眺望性を確保するようにする。



ボート小屋・ボート乗り場



側面図

水線敷

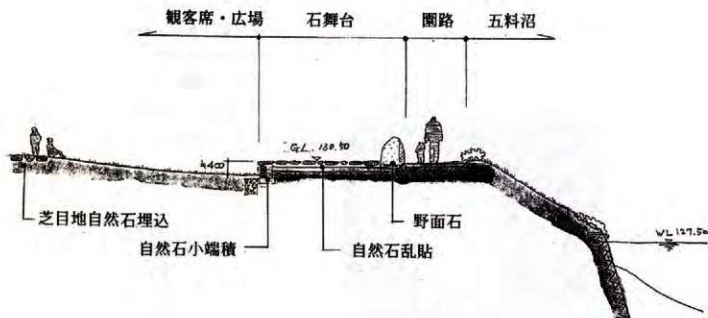
正面図

7. その他施設設計

本公園には、教養施設として、石舞台、休養施設として、ベンチ、便益施設は、時計・水飲み、遊戯施設として、遊具があり、また、管理施設の車止・フェンス・サイン等も含めて、これらの内容を検討するものとする。

石舞台

- 松と五料沼を背景として、既存のなだらかなスロープを観客席とした屋外ステージとして自然な素材を利用した石舞台を設ける。
- 各種のイベントなどが行える多目的な施設とする。



以下にあげる時計・水飲み・ベンチ・クズ入れ・スイガラ入れ・車止め・フェンスなどのファニチャー類については、

- クラシックでさりげないものとして、土着的な土地柄に合うものとする。
- 暖かみがあり、親しみ深い自然素材（木材・石材・陶製）を主体として用いる。
- 多少古墳にちなんだ形態も応用する。

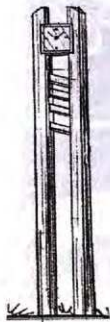
として、とらえる。

時計

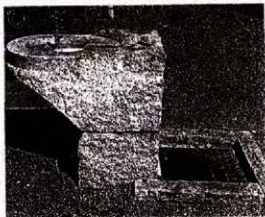
- あまり存在を強く主張するような形態を避け、かつ木製として、周辺環境との調和を図る。
- 装置は、ランニングコストを考慮したソーラー式とし、広場を中心に設ける。

水飲み

- 自然石（三波石または御影石）の加工品の組み合わせにより、自然景観に合った素朴なものとする。
- 身障者も車椅子で利用出来るような形態とし、また、足洗い場も併設させる。
- 配置にあたっては、人の集まり易い所を中心にして設け、植物のための散水機能も兼用できるようにする。



時計



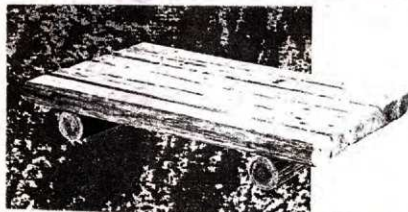
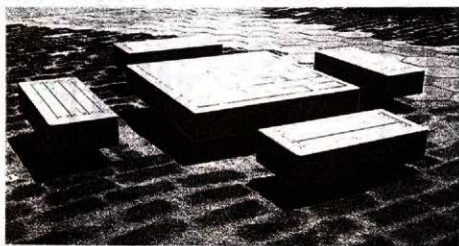
水飲み



水飲み

ベンチ

- 木や石を用いて、配置する場所により異なる形態のものを適用させる。
- 木製ベンチのうち、素朴な丸太の組み合わせのものは、ワイルドな草地の中に配し、広場や園路沿いには、角材の加工木製品や座面をカットした自然石（三波石）のスツールを用いる。
- また、ピクニック（弁当食べなど）にも利用しやすいように、テーブルを併設したものも考えていく。



クズ入れ、スイガラ入れ

- 風景にとけ込むような控え目なデザイン、素材とする。
- クズ入れ、スイガラ入れは、木製品のオーソドックスなスタイルをもたせ、これらはセットとして、同一の形状とする。
- クズ入れ、スイガラ入れは、人の集まり易い広場、便所や幹線園路沿いに配置する。



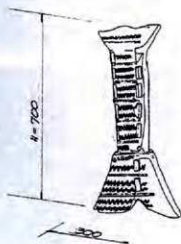
クズ入れ



スイガラ入れ

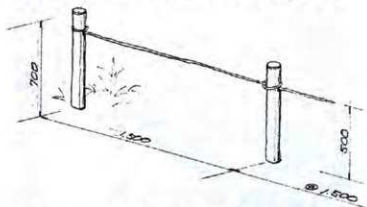
車止め

- 古墳より出土した埴輪の形態をモチーフにした铸铁製を用い、公園の特色を強めさせる。



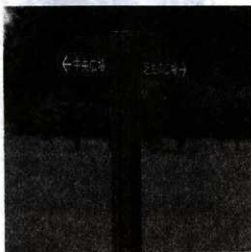
フェンス

- 五料沼や新堤沼に対して、注意を喚起させるような、人止めフェンスを設ける。
- フェンスは、自然の風景になじむような高さの低い木柵を考え、護岸沿いの低木植栽とともに安全性を確保させるようにする。
- 外周フェンスは、簡易なものを考え、さりげないものとする。



サイン

- サインの種類は、施設説明、施設名の表示、誘導方向表示を配置する。
- サインの形態は、周辺環境に調和させた素朴なものを考えて、すべて木製品として、統一性をもたせる。



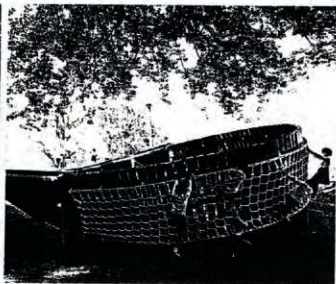
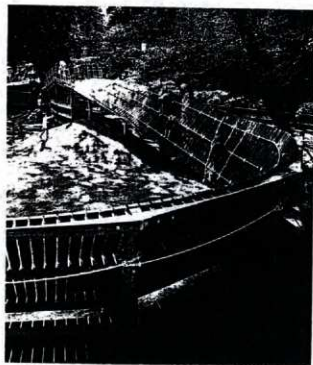
遊具

- 遊具は、素朴で風景の一部として、違和感のないものとする。
- 素材は、木製とする。

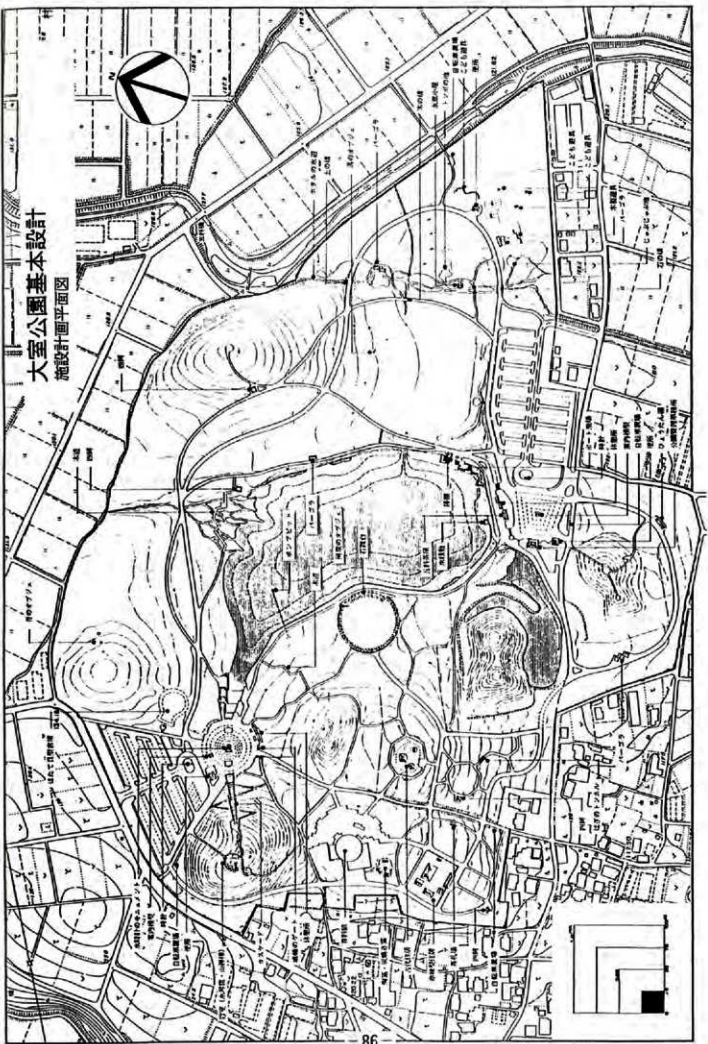
ロープウェイ



ボード・ウォーク



大室公園基本設計
施設計画平面図



8. 植栽設計

本公園の植物は、豊かな既存の樹林や美しい松並木、更に水辺には水生植物が見られ、高い自然性と良好な景観性が創り出されている。

植栽設計においては、これらのストックされている植物環境の質に加えて、新たな植物により自然性と景観性を強めながら、植物と人との様々な関わりを高めるようにとらえ、以下のようなあり方を示すようにする。

- 土地の気候風土に則した自然な植物のあり方を大切に、これらを活用する。
 - ・ 郷土の培ってきた植物または日本の野生種の導入
 - ・ 自然風でランダムな配植
 - ・ 生育適地に沿った植物景観づくり
- 昔より人々に親しまれてきた、親密で愛着深い植物とそのあり様を表現させる。
 - ・ 「松竹梅」・桃・桜・藤・紅葉など歳時記や和歌の世界としての観賞植物の応用
 - ・ 菖蒲・柊(けいけい)・竹・ススキなど生活行事にちなんだ植物の導入
 - ・ 銀杏・榎など神木のある広場の景色づくり
- 里としての生活にちなんだ植物や、植物景観を継承させる。
 - ・ 薪炭林・松林・竹林・桑畑・高垣(かぎね)、春・秋の七草など民話や童謡の世界、またはくらしの中で息づく植物のあり方の再現

これらを踏まえ、植栽設計の内容は、次のように考えていく。

- ・ 各空間ごとに、植物景観に変化をつくり、奥行きのある景色を生みださせる。
- ・ 観賞性を高めて、四季折々の植物と触れ合え、楽しめるようにする。特に、ワイルドフラワー（低管理の野草の花園）により、草花の演出も図る。
- ・ 植物を通しての知恵や遊びなどが伝承されるように、公園の催し物や行事に結びつく植物を配植する。
- ・ 人々の五感で様々に感じられるように植物を扱っていく。

9. 給排水設計

給水設計

- 本公園の給水は、公園南側道路に埋設されたφ150mm V P（硬管塩化ビニル管）より、φ80mmで引き込み、量水器から2系統に分岐させる。
- 園内には受水槽は必要ないと考えられるが、資料館は規模が大きいので、受水槽と加圧給水の両方で給水させるようにする。
- 資料館と民家園については、小メーターを設けて、管理系統を分離させる。
- 給水管は漏水対策も考慮して、φ50mm以上は、V P - R R 管（塩化ビニル片受管）、φ50mm以下は、V L P - V P 管（内外面被覆鋼管）とする。
- 当地の凍結深度は、150mm程度と考えられることから、給水管の埋設深度600mmで問題はないが、地上部に出る箇所においては、水抜バルブ・保温筒などにより対処させる。

雨水排水設計

- 雨水は、植栽面が多いことも含めて、自然に土に返す方法（自然浸透）を基本とし、極力園内処理を図っていく。
- 舗装面も浸透性舗装を採用しているが、特に人の集まりやすい広場や駐車場は、機能性を考慮して集水樹などの排水施設を設ける。
- 幹線園路・支線園路沿いには、山側に、素掘側溝を設けて集水する。
- 排水施設で集中された水の放流先は、北口駐車場は五料沼、南口駐車場は水路、みんなのはらっぱでは流れ・池とする。

汚水排水設計

- 汚水の発生する施設は、資料館、民家園、管理事務所、茶屋、便所、水飲み場があり、公園周辺の下水道に流入させるものとする。

大室公園基本設計 排水計画平面図



10. 電気・放送設計

電気設備

- 本公園の受電は、北西側、北口駐車場付近にある電柱（東電：西大室146）より高圧（3φ 6.6kV）にて引込むものとする。
- 電力の供給施設は主として、建物、カスケード・水時計、照明灯であり、これらの電力負荷は以下のように設定できる。

名 称	指定面積	単位負荷	想定負荷	備 考
資 料 館	約3,000m ²	180w/m ²	540kw	(冷暖)
民 家 園	約200m×3	20w	12kw	
管理事務所	約 200m ²	200w	40kw	(冷暖)
便 所	約40m ² ×3		6kw	(2kw×3)
茶 店	40m ²	200w	8kw	(一部冷暖、キッチン/ヒーター)
ボート小屋	15m ²	200w	5kw	(一部冷暖)
カスケード・水時計			11kw	
照 明 灯			40kw	
計			662kw	

- 変電所は、負荷の中心が資料館と管理事務所付近に分かれることから、2ヶ所に分けて設置する。これらの変電所の内容を整理すると、以下のようになる。

第1変電所(受変型 饋電所)

供給地域	資料館、民家園、カスケード、水時計、北口駐車場、その周辺照明灯 (540Kw+12+11+15Kw) = 578Kw		
容量	動力変圧器	250KVA	1台
	電灯変圧器	100KVA	4台
キューピッケル面数	約7面		

資料館、民家園は小メーターにて公園と別に計量する。

第2変電所

供給地域	管理事務所、便所、茶店、ボート小屋、照明灯、他 (40Kw+4+8+5+25Kw) = 82Kw		
容量	動力変圧器	30KVA	1台
	電灯変圧器	75KVA	1台
キューピッケル面数	2～3面		

いずれの場合も、電気方式は下記とする。

動力系 3φ200V 50Hz

電気系 1φ3W 200V/100V 50Hz

- 変電所からの二次側配線は公園の性格上すべて地中埋設配管とする。工法材料は、

強電系 …… CV or CVT ケーブル FEPパイプ配管

計装・警報系 …… CVV ケーブル FEPパイプ配管

とする。

- お祭り会場には、夜間の催し物開催のために、コンセントを用意する。

照明灯計画

- 照明については、利用者の安全と保安維持を図る明視照明と、植物や施設などの演出を図る修景照明があり、本公園もこの両面から演出を図るものとする。
- 明視照明については、深夜防犯上必要なものを除き、消灯または減光させる。
- 照度の検討

照度のJIS基準は、公園の主要な場所においては、5～30lx、他は1～10lxであるが、本公園は市街地郊外の立地で、修景主体の公園であることから、夜間照度を高めることはせず、必要部（古墳や樹林を除く場所）に対してのみ1lxを確保できるように考える。また、広場や駐車場は5lxを確保する。

$N = E \cdot A / F \cdot U \cdot M$ より、

$E = 1 \text{ lx}$ とすると（1灯用）

$N = 79$ 本 平均設置間隔57m

$E = 5 \text{ lx}$ とすると（2灯用）

$N = 197$ 本 平均設置間隔36m

E：平均照度

A：照度面積～約200,000m²

F：ランプ光束

～HF250 1灯 13,000lx

～HF250 2灯 26,000lx

U：照明率 ～0.3

M：保守率 ～0.65

- 照明灯は、入口広場、資料館前は、水銀灯250ワット2灯用とし、5ルクスを確保、他は水銀灯250ワット1灯用を用いて、1ルクス確保させ、主要園路沿いに設けるものとする。
- 照明灯は、昼間の風景と調和し、視界の邪魔にならないような形態のものとする。
- 修景照明は、五料沼の水面に映えるようなフットライトを護岸沿いに設ける。



照明灯



フットライト

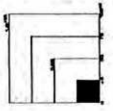
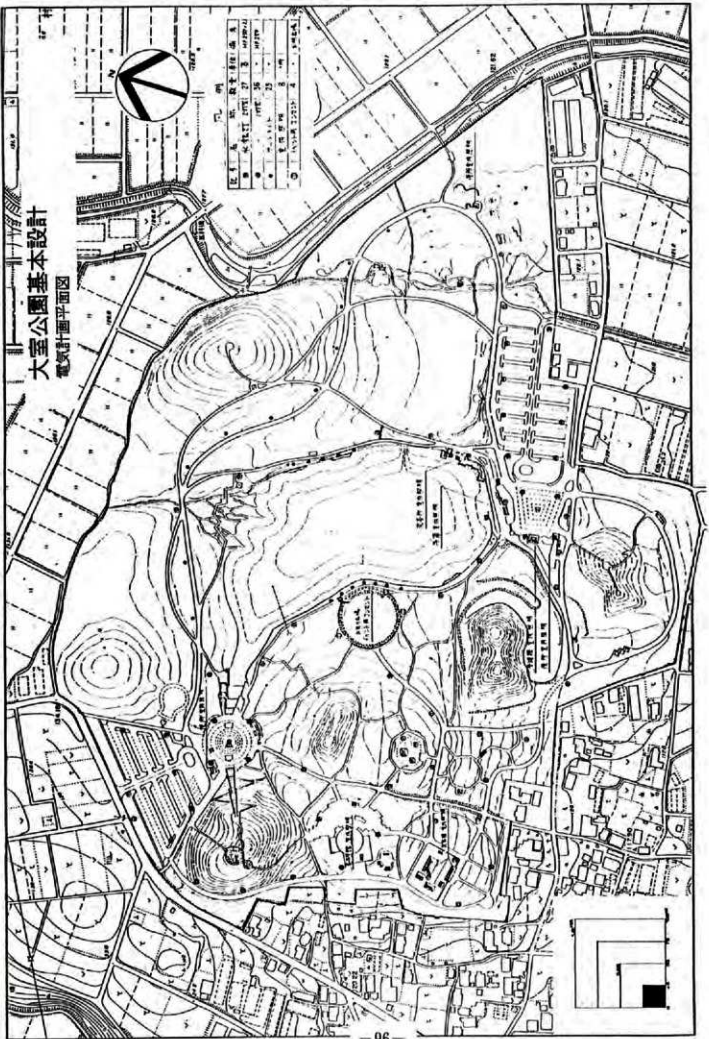
放送・電話その他

- 公園利用者への案内、情報提供のため、スピーカー配置の放送施設を設ける。
- 各屋外便所には、身障者便所が設置されるので、警報設備を設ける。又、各建物間などの職員連絡用にインターフォンを設け、機器相互通話、省線型を使用する。
- 夜間の管理に対しては、各建物等の警報を一元的に管理し、警備保障会社へ移報できるように考える。

大室公園基本設計 電気計画平面図



設計者	坂本 義典
設計年	昭和 27 年
設計場所	大室公園
設計内容	電気計画
設計者	坂本 義典
設計年	昭和 27 年
設計場所	大室公園
設計内容	電気計画



大室公園基本設計

放送計圖平面圖



11. 管理・運営計画

公園の管理体制について

本公園の管理体制としては、公園全体の管理・運営は公園の管理事務所でいい、古墳・民家園・資料館の特定範囲に於いては、教育委員会で行うことを原則とするが、運営上両者の協力体制が不可欠であると考えられる。教育委員会で行う催物などの運営についても公園と一体となって公園への導入案内・広報・放送・便益サービス・修景整備・清掃・緊急時対応などが必要となり、これらがスムーズに行われるためには、公園全体の活動として全てを捉えることが管理体制上、合理的であると考えられる。

公園管理事務所を中心に行う業務については、公園の案内・巡視・事務・安全指導・維持管理の委託業務への指導・ボート場・茶店の運営などがあげられる。

また、教育委員会で行う催物などのスケジュールを公園の運営スケジュールに組み入れて調整や連絡を密に行うことが必要であり、このことにより、利用者への十分な対応がなされることが考えられる。

本公園の管理体制として、以下のように提案する。

- ・管理事務所（案内・催物準備運営・委託業務・ボランティアへの指示・巡回・放送・連絡など）

2人

- ・ボート乗り場（発券・乗場整理・監視・安全管理・修理など）

2人

- ・茶店（食品の簡単な調理・販売など）

2人

このほか、植物観察や昆虫採集に関する企画・準備・指導などを行う職員（レンジャー）が必要と考えられるが、ボランティアなどの導入も考えるものとする。

ボランティア活動の導入

公園周辺の住民には地域の歴史や郷土の文化・遊び、植物や昆虫などについて、詳しい方も多いと考えられ、それらの人々による都市部から訪れる子供達への説明や、一緒に遊んだりすることで、世代間交流や地域間交流ができるように考えていく。このように、公園をふれあいの場として機能させるため、積極的にボランティア活動の参加の機会を提供していくことが望ましい。そこで、教育委員会の運営する資料館や民家園での活動を取り込んだ形で「公園を愛する会」などのボランティア組織を形成して広がりのある活動が展開されることを目指す。

活動内容としては以下のようなものが考えられる。

- ・年中行事の指導、民芸工作指導、植物・昆虫観察の指導
- ・郷土の歴史や民話・遊びの伝承の催物、写生・俳句・茶会などの指導
- ・花づくり、炭焼き、食物加工、ゲートボールなどの指導、公園新聞の作成など

緑のリサイクル活動

本公園の管理の考え方として、環境にやさしく、省エネルギーで自給自足を図ることを基本方針としたい。郷土の古くからの知恵を取り入れて、その文化を示すとともに、環境教育の一環としても次のことを実践することが望まれる。

- ・薪炭林の昔ながらの管理の継承
 - 下草刈り、落葉の畑への敷込み、炭焼き、シイタケの栽培、たき火
- ・剪定枝葉のチップ化
 - 堆肥の生産、マルチング材としての利用（林床、遊具の下、ジョギング道への敷込み）、昆虫床の形成
- ・草刈りの非集草化
 - 土壌の硬化を防ぎ、管理コストの低減を図る。郷土の草地の再現。
- ・薬品の無使用化
 - できるだけ化学肥料や殺虫剤、除草剤を用いずに管理を行う。

年間催物プログラムの提案

本公園では、郷土に培われて来た、様々な生活行事をとり込んで、人々の交流が、広がる公園の催物を積極的にプログラムしていくことが望ましく、以下のよう
に年間催物の提案を行う。

1年中行う催物 古墳の研究会、俳句会、写真コンクール

1月 正月飾り、まゆ玉、もち焼、羽子板大会、独楽まわし大会、凧上げ大会

2月 梅まつり、わら細工教室、昔ばなしの会、まめまき会

3月 春のお茶会、ひな祭り、紙芝居、竹馬大会、春の園芸市

4月 お花見会、甘酒まつり、竹とんぼ作り、写生大会、さくら草まつり

5月 子供の日、綱引き大会、昔の遊び教室、花壇づくりコンクール

6月 しょうぶ祭り、水生昆虫観察会、かいこ祭、田植え

7月 七夕祭り、探鳥会、薪能、ボート大会、花火会

8月 ホタルの夕べ、朝顔写生会、盆の沼まつり、夏のコンサート、
かふと虫の会

9月 月見の会、トンボつり、秋のコンサート、木の実の教室、スズムシの夕べ、
十五夜

10月 ききょうまつり、菊花展、ゲートボール大会、きのこ教室、かかし祭り

11月 秋のお茶会、恵比須講、炭焼教室、ドングリ工作会

12月 もちつき大会、沼まつり、いも煮会、すすはらい、埴輪づくり

水系の管理

本公園の水系に対しては、次のような管理を行うようにする。

- 本公園に流入する導入水については、水位計を設置して水量の計測を行い、年間を通して、連続して水量を確認できるようにして、水量の保持を図るようにする。
- 水質は導入水、五料沼、流末で年4回程度チェックし、悪化が認められるなら、原因を究明し、適切な処置を施す。また、導入水に農業の混入が著しいと認められた時は、水の導入を停止するなど考慮していく。
- 五料沼については、2～3年に1回程度、今までと同様に底干しを行い、ヘドロの堆積が著しい場合は、浚渫して取り除く。また、流れについても、ドロ、ゴミさらいを年1回程度実施するように考える。
- 水辺の繁茂しすぎた水生植物は年に1、2回間引くか、刈り取ることも必要であるが、水辺周辺の草木はいろいろな小動物の生活場所なので、不快な感じを持たれない程度になるべく粗放管理する。やむを得ず、草刈りを行う場合は、モザイク状の刈り取りや、一定の長さを残す方法をとる。

自然生物の保存管理

- 本公園では、年に2回程度、生育、生存する様々な生物相の調査を行い、その結果を常にフィードバックさせ、実際の管理に役立てるようにした自然生態観察記録を作成する。それにより、人為の影響を常に把握し、それが顕著なら時間、区域の立ち入り制限を設定することも含めて、対応を検討していくようにする。
 - 生息する生物を解説板、パネル等で来園者へ情報提供することも考え、これにより、園内が生物の生息環境であることを知らせ、環境保護の意識を持たせるようにする。
- また、四季折々の自然を対象とした、自然観察会を催し、自然への理解を深めさせる。更に、草木を使った遊びや、自然の中で遊ぶ楽しさを味あわせるプログラムも充実させて啓蒙を図っていく。

VI. 概算工事費

工事費總括表

種 別	數 量	單 位	金 額 (円)	備 考
直接工事費				
1. 敷地造成工	1	式	130,520	
2. 園路広場工	1	式	537,780	
3. 修景施設工	1	式	705,700	
4. 休養施設工	1	式	37,200	
5. 遊戯施設工	1	式	85,200	
6. 教養施設工	1	式	26,500	
7. 便益施設工	1	式	64,600	
8. 管理施設工	1	式	266,250	
9. 雑 工	1	式	10,000	
計			1,863,750	
諸 経 費	1	式	936,250	50%
合 計			2,800,000	

内訳表 - 1

名 称	仕 様	数 量	単価 (円)	金額(円)	備 考
1. 敷地造成工					
整地		230,000m ²	400	92,000	
盛土		36,000	1000	36,000	
切土		6,300	400	2,520	
小計				130,520	
2. 園路広場工					
園路舗装	アスファルト混入土舗装	20,000m ²	6,000	120,000	
"	土転圧	1,000m ²	500	500	
コンクリート舗装		120m ²	4,000	480	自転車置場
透水アスコ舗装		12,000m ²	2,200	26,400	駐車場
透水コンクリート舗装		8,000m ²	8,000	64,000	駐車場
広場舗装	洗い出し舗装小礫石ボ-ダ-	4,200m ²	15,000	63,000	水時計の広場
"	洗い出し舗装瓦のボ-ダ-	3,900m ²	14,000	54,600	水鳥の広場
"	石張舗装小礫石ボ-ダ-	2,200m ²	55,000	121,000	資料館前広場
"	自然石乱張舗装	1,200m ²	35,000	42,000	お祭り広場
木道	W = 1 ~ 2m	200m	120,000	24,000	
木の橋		1基	5,500,000	5,500	
土の橋		1基	7,000,000	7,000	
石の橋		1基	9,300,000	9,300	
小計				537,780	

内訳表 - 2

名 称	仕 様	数 量	単価(円)	金額(千円)	備 考
3. 修景施設工					
高木植栽		3300本	50,000	165,000	
中木植栽		900本	10,000	9,000	
低木植栽		13,000m ²	12,000	156,000	
ワイルドフラワー		10,000m ²	5,000	50,000	
芝生・地被類		110,000m ²	1,500	165,000	
カスケード		1式		52,000	
流水・池		1式		14,000	
バグワ・藤棚		9基	2,500,000	22,500	
水車		1基	6,000,000	6,000	
高礼場		1基	1,200,000	1,200	
水時計		1式		18,000	
オブジェ	河童、馬、鳥のオブジェ、9基	1式		30,000	
岩室		1式		17,000	
小計				705,700	
4. 休養施設工					
四阿	20m ²	4基	5,300,000	21,200	
ベンチ	機	100基	160,000	16,000	
小計				37,200	

内訳表-3

名 称	仕 様	数 量	単価(円)	金額(千円)	備 考
5. 遊戯施設					
遊具	計4基	1式		15,000	
ボート乗場	#-ト小屋、デッキ	1式		66,000	
水桟敷	木製	1基	4,200,000	4,200	
小計				85,200	
6. 教養施設					
石舞台	自然石並置立石小端階段型	1式		16,500	
炭焼き小屋陶窯		1式		10,000	
小計				26,500	
7. 便益施設					
茶店	平屋40m ²	1式		16,000	
便所	40m ²	3棟	1,200,000	36,000	
時計	ソーラー式	2基	2,300,000	4,600	
水飲み	自然石製	10基	800,000	8,000	
小計				64,600	

内訳表 - 4

名 称	仕 様	数 量	単価(円)	金額(円)	備 考
8. 管理施設工					
管理事務所	平屋200m ²	1 式		75,000	
雨水排水		1 式		9,000	
汚水排水		1 式		11,000	
給水設備		1 式		7,500	
照明灯	2 灯型 27基 1 灯型 36基 フットライト 23基	1 式		35,000	
受変電設備		1 式		80,000	
放送設備		1 式		20,000	
公園案内標	陶製	2 基	5,000,000	10,000	
サイン	木製	27基	250,000	6,750	
フーチ-類	クズ入れ・スイ格拉入れ 車止・柵	1 式		12,000	
小計				266,250	
9. 雑 工	撤去・伐開など	1 式		10,000	
小計				10,000	

VII. 今後の課題と提案

大室公園史跡整備委員会との調整

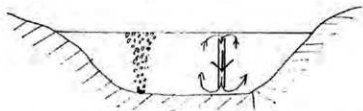
- 現在、国指定史跡である三二子古墳は調査が進行中であり、また、梅木遺跡等周辺の発掘調査も今後予定されていることから、本公園計画は、今後明らかにされるこれらの調査結果と、様々な点で調整を図っていくことが、必要であると考えられ、古墳整備部会との緊密な連絡を保っていくことが望まれる。
- 大室公園史跡整備委員会による資料館や民家園についても、同様にそれぞれの部会との調整の中で、資料館の性格、規模、運営目標などや民家園の扱い方と周辺の整備内容など具体的内容に対して、今後とも整合が図られることが、必要である。
- 三二子古墳の国指定史跡区域に対しては、公園と一体的で、活用を高めるような整備を更に推し進めることが考えられ、史跡内園路の設置や、新堤沼の水面利用として、菖蒲園整備など、今後検討が加えられることが望まれる。

五料沼の水辺環境維持のための提案

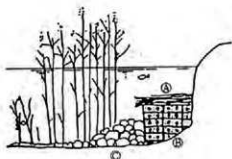
一般に、水質は有機汚染でよく使われるBODと関連づけて、次のように分類される。

貧腐水性	<2.5 mg/ℓ
β-中腐水性	2.5~5mg/ℓ
α-中腐水性	5~10mg/ℓ
β-強腐水性	10~50mg/ℓ
α-強腐水性	50< mg/ℓ

五料沼の現在の導入水の水質は、β-中腐水性で、時にはα-中腐水性に達するものと考えられる。強腐水性域に達すると魚類の死亡、水の華現象等、様々な悪影響が生じるので、沼の水質はBODで10以下、α-中腐水性の水質を維持すべきと考える。BODはCODより小さい値であることが望ましく、CODよりBODが高いことは生物的未分解の物質が多く残存することを示し、水質が不安定となる。導入水の人為的汚染（工場、家庭排水の混入）の程度は、塩素イオン、電導度が指標となりうるので、日常チェックして対処するようにしたい。沼の水については一般的に表面は藻類の光合成により、溶存酸素が過飽和となり、底は酸素不足に陥ることが多い。従って水質の浄化機能のために、上層と下層の水を循環させることや、底からエアレーションをするように考えたい。



五料沼の沼底の管理にあたっては、ヘドロ層を浚深し、山砂を入れるようにする。砂は動きやすく安定性がないことから、生物相が少ないとされるが、波の生じない沼では砂でも充分安定した表層を形成するとみられ、自然に有機物の堆積や底生動物が定着すると考えられる。底には部分的に石積み、ブロック、レキ等をおき、変化をつけて、多孔質化することにより、魚や水生昆虫の住処や隠れ場所とすることも考える。



多孔質環境の創出

◀水質 ブロック、レキなどを水に沈めることにより、魚類、水棲昆虫などの隠れ家を提供する。
枯草、ムシロなどを沈めるのもよい。
④ 枯草、⑤ ブロック、⑥ レキ

実施設計にむけて

- 新設される本公園への南側アクセス道路については、今後、その詳細について、担当部局との調整が図られることとなるが、公園アクセスとして相応しい整備内容をもつことが望ましく、街路樹植栽や、サイクリングも兼ねられる充分な幅員の歩道整備等にも留意を図りたい。
- 現況の樹林や松並木など既存の植生については、今後、行われる測量図にもとずき、正確に位置や内容を把握した上で、充分に保全に配慮しながら、設計を進めることが望ましい。
- 五料沼や新堤沼その他の水路については、下流の耕作地の様子に留意しながら問題を残さないように、水の公園利用を図っていくこととし、充分な検討を施す。
- 実施設計においては、本基本設計で検討整理された内容を踏まえ、更に充実した実現性のある設計を図っていくものとする。

VIII. 資 料 編

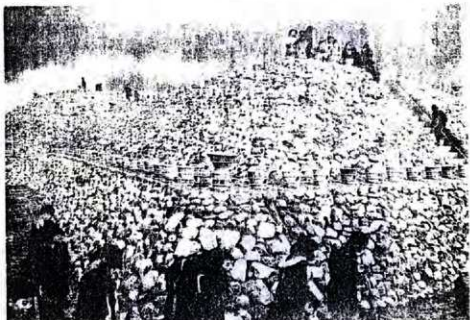
□ 古墳の取り扱い（利用・展示など）の事例

	石室内に人を入れているもの	古墳を再現して見せているもの	レプリカなどを展示しているもの	その他
古墳の丘公園 島根県松江市古曾志町		○ 実物大に移築復元	○ イメージ図など	野外展示広場 野外ステージ・遊歩道
古代出雲王陵の丘（計画） 島根県安来市			○ 出土品展示	
横室の古墳群（計画） 群馬県勢多郡富士見村			円墳の石室は外から見えるようにする	
豊中の塚塚古墳群 大阪府豊中市		○		円墳の頂上まで階段を設けている
朝田墳墓群（計画） 山口市朝田			レプリカによる墳墓復元	遺跡保存のため道路工事はトンネル工法
はにわ公園（計画） 福岡市・群馬町・太田市			○	はにわ工房設け郷土博物館 古代村、ピクニック広場 埋蔵文化財センター
藤ノ木古墳（計画） 奈良県生駒郡斑鳩町	○ 古墳内部をガラス張り		○ 石棺など	2体の人骨や副葬品は取り出す
私市円山古墳（計画） 京都府綾部市私市町		○		
神花山古墳公園 山口県熊毛郡平生町田名		○		古代女王の顔が復元 →町歴史民俗資料館
憩いとやすらぎの広場 「カムイ・ヘチリコホ」 岩手県和賀郡江釣子村		○ 円形の古墳に見立てた土壘形ドーム		ドームとその周辺に村民や村ゆかりの人の手形を彫り込む 「縄文コンサート計画」
穴観音古墳 愛知県宝飯郡御津町				石室の入口に案内板 遊歩道
聖山公園の稲荷古墳群 栃木県宇都宮市上欠町		○		
「天皇の社」古墳 京都市西京区嵯峨ノ越町				墓（ふき）石の一部を露出させ 築造当時の姿を示す 遊歩道
房総風土記の丘資料館 千葉県印旛郡栄町			墳輪・轡・武具・馬具・玉一 出土品	広い森の中の古墳群 野外展示物
埼玉県立さきたま資料館 埼玉県行田市埼玉			古墳出土品が王巻 武具・馬具・装身具など	9基の大型古墳が群集
山梨県立考古博物館 山梨県東八代郡中道町			古代の遺物が展示・解説されている	古代の集落跡や古墳がたくさん点在

平成 3 年 8 月 現在

古墳の丘公園

島根県松江市古曾志町



古代出雲王統の丘

安来市が「古代出雲王統の丘」構想

島根県安来市



大阪府豊中市

豊中の桜塚古墳群



古墳公園として整備、保存される精室の古墳群

朝田墳墓群

山口市朝田



史跡公園の完成予想図、左が大塚古墳、右が御獅子塚古墳

神花山古墳公園

山口県熊毛郡平生町田名

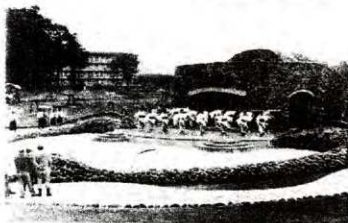


整備された神花山古墳公園

憩いとやすらぎの広場

「カムイ・ヘチリコホ」

岩手県和賀郡江釣子村



神楽や踊りで完成を祝う＝和賀郡江釣子村で

穴観音古墳

愛知県宝飯郡御津町



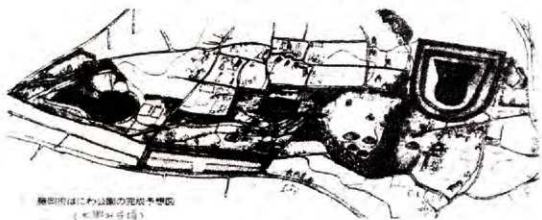
新しく公園として生まれ変わった御津町豊沢の「穴観音古墳」。

聖山公園の稲荷古墳群

栃木県宇都宮上欠町



レプリカによって復元された朝田城跡群の戦衣石塚墓



朝田城跡群の復元図
(左側が石塚墓)

山梨県甲府市 丸山塚古墳



長野県直科郡戸倉町
さらしなの里古代体験パーク

さらしなの里古代体験パーク



□ 水系の現況

- 水系全体の水の供給源として、①の水路から約8.4m³/minの水量がある。②に簡単な堰があり、③と④に分けられるが、現在は水量の大部分がそのまま③へ流れている。①の水質は以下の通りである。(1991.11.19 採水)

pH値	7.5
COD	6.6 mg/l
BOD	5.9 mg/l
電気伝導率	212 μs/cm
アンモニア性窒素	0.27 mg/l
リン酸態リン	0.06 mg/l



この水質は他のデータと照らし合わせて判断するとβ-中腐水性の水質である。生息可能な魚類として、フナ、ウグイ、オイカワ、ドジョウ、ナマズ等が挙げられる。また、貝類、甲殻類、水生昆虫等に関しても多様な出現が見込まれる。但し、上流部で水田からの排水がかなり含まれるとすると、農薬使用時に農薬汚染が心配される。

- ④の水路より水は五料沼に注がれ、長時間滞留した後、沼底の排水口より⑧へ導かれる。

五料沼の水質は、現在コイの養魚場となっているため、相当悪化しており、岸の停滞部では水の華の現象もみられる。これは、流入水が長時間停滞していることも一因と考えられる。

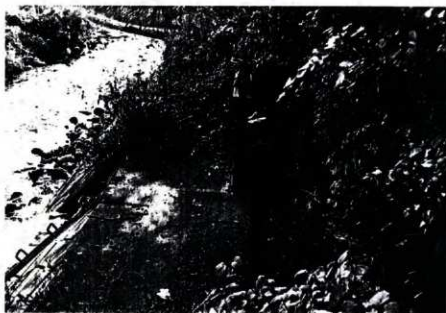
- ③の水路は⑥へ連続している。⑤に水門があり、調節により桂川へ排水される。現在は、桂川へは少量しか流れ出ていない。また、桂川より取り入れも可能である。

⑥と⑧の水は⑦で合流し、⑨と⑩へ導入されるが、水門により流量調節できるようになっている。現在は同量ずつ⑨と⑩へ流れている。⑩は桂川へ排水される。⑨は道路下を通り、その先再び農業用水として使用される。

⑪に水路が確認されるが、現在は水が流れていない。五料沼からの排水口は⑧と⑫である。

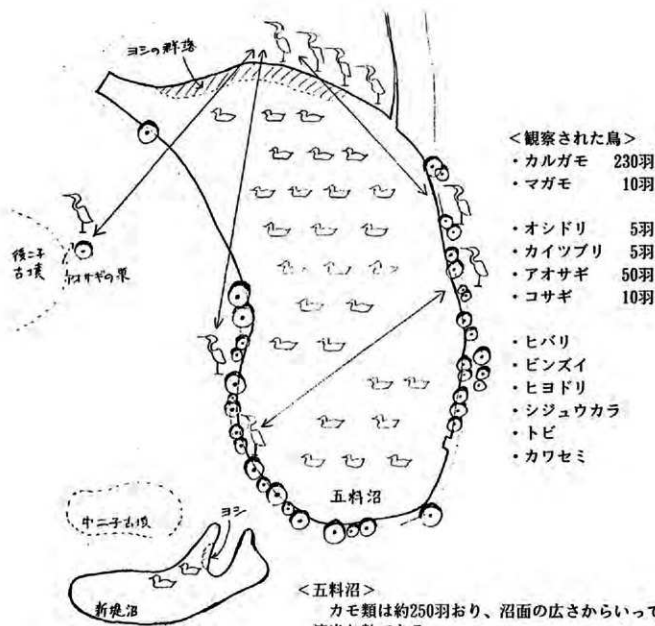


現状の水路



河川への放流堰

□ 五料沼・新堤沼における鳥類の観察状況



＜五料沼＞

カモ類は約250羽おり、沼面の広さからいって適当な数である。

この沼の一番の特徴はアオサギが多いことであり、約50羽いる。一般にこれは集団で生活する数であり、巣などは集団で大木の樹上に作るとされている。今回、後二子古墳の大木の樹上に巣らしきものを発見した。生息場所は沼に面し、日が当たる畑や、沼の回りのクロマツの樹上にある。餌はカエルや沼の子魚など。

カモ類もアオサギも、半径50m以内に人や車が近づくと、対岸へ飛び立つ。

＜新堤沼＞

カルガモのみ約20羽生息。ヨシなどがある奥の入江や中二子古墳の山側の岸辺にいる。道路側の岸辺には、ほとんど来ない。

□ 施設設置基準

公園施設の1ha当り設置数および平均的公園面積表（河原武敏：文相引より）

()内は平均的公園面積、単位ha

公園の種別とグループパターン	園路・広場 %	植栽地 %	休憩所・バーベキュー場/ha	ベンチ基/ha	公園便所種/ha	飲用水栓基/ha	層かご基/ha	外灯灯/ha	備考	
地区公園	普通型	27(4)	67(4)	1.4(5)	15(4)	0.5(5)	1.2(4)	4(5)	5(4)	
	都心型	43(8)	54(4)	—	59(8)	—	—	12(8)	新宿中央型	
	特殊型	—	38(8)	実情に依じる	26(4)	実情に依じる	—	12(4)		
	平均値 _x	29(3)	54(5)	1.7(6)	29(5)	0.6(5)	1.2(4)	6(5)	7(4)	
総合公園	移住主体型	18(38)	74(38)	0.1(38)	9(38)	0.2(38)	0.4(38)	3(45)	2(15)	森林公園の取捨の代々木型
	普通型	36(12)	47(13)	0.6(12)	10(13)	0.4(12)	0.8(12)	3(12)	7(12)	芝・隅田型
	都心型	—	—	—	39(13)	0.8(12)	1.8(14)	12(15)	—	目比谷型
	平均値 _x	25(16)	65(16)	0.3(22)	13(17)	0.3(17)	0.7(16)	4(17)	7(25)	
風致公園	郊外型	18(25)	78(25)	0.2(25)	5(25)	0.2(34)	0.2(25)	2(25)	2(26)	市街地のはずれに立地するもの
	普通型	34(8)	57(35)	1.1(9)	22(11)	0.6(11)	1.2(11)	7(4)	8(8)	市街地内にあるもの
	体業主体型	—	—	—	—	—	—	13(15)	—	体費園地を大きく含むもの
	特殊型	実情に依じる(19)	実情に依じる(19)	—	41(8)	実情に依じる	—	18(19)	—	前3項に属さないもの
平均値 _x	30(14)	64(14)	0.5(14)	16(14)	0.4(15)	0.7(14)	8(14)	4(14)		
歴史公園	教育庭園型	19(6)	73(6)	—	18(4)	—	0.9(6)	—	—	均等の本格的庭園
	教育特殊型	—	—	—	5(13)	—	—	—	—	文化財庭園
	風流庭園型	37(1)	46(1)	—	35(1)	—	3.3(2)	—	—	宮庭園・野草園等
	普通型	—	—	0.8(5)	—	0.9(5)	—	11(5)	4(5)	觀賞・風流を兼ねたもの
	特殊型	実情に依じる	実情に依じる	実情に依じる	—	実情に依じる	実情に依じる	実情に依じる	14(3)	特殊庭園
	平均値 _x	20(12)	70(4)	1.0(5)	13(4)	0.8(4)	1.5(5)	12(5)	4(11)	
総平均	26(11)	63(11)	0.5(12)	15(11)	0.4(10)	0.8(11)	6(11)	4(12)		

①植栽地は植込地+芝生地(観音の芝生フィールドは除く) ②数字は設計値、③各公園の特性・実情を加味し、多少数量を修正した。

□ ボート乗り場の事例

	前橋市 数島公園	東京都 井の頭公園・井の頭池	杉並区 養福寺公園・養福寺池	練馬区 石神井公園・石神井池	大宮市 大宮公園
公園の総面積	363,000m ²	363,000m ²	—	—	380,000m ²
池の面積	10,000m ²	43,000m ²	10,000m ²	30,000m ²	17,700m ²
水深	1.3m(最深部)	1.0~1.5m	1.0~1.5m	3m(平均)	1.5m(最深部)
利用時間(時間)	3/1~11/15 9:00~17:00 (8/10~9/10:19:00休)	無休(年末年始を除く) 9:30~16:00	井の頭池と同じ	10:00~17:00 (水曜休 (12/1~2/28は1:00休))	—
料金 (ボートの種類)	ペダル式 ¥300/30m オール式 ¥100/30m	サイクルボート ¥500/30m ローボート ¥500/1H	サイクルボート ¥500/30m ローボート ¥300/30m ¥500/1H	サイクルボート ¥620/30m ローボート ¥520/30m ¥720/1H	池を民間業者に貸与 (運営委託)
管理人	2名	3名(売店含)	1名(休日2名)	2~4名(食堂、売店)	—
周囲の様子	松 林	遊歩道、雑木林	広場、遊歩道、公道	雑木林、遊歩道	—
備 考	・約禁止 ・釣池が隣接している がボート池内で釣をする人がいる(夜間) ・利用者 日・朝250人 平 40人	・約禁止 ・柵欄以外の乗船禁止	・約禁止 ・柵欄以外で乗船禁止 ・サクラの名所	・約禁止 ・約禁止だが釣人多数(照付状態) ・柵欄(2ヶ所)以外で乗船禁止 ・西武鉄道L&Kが管理運営	—

□ ワイルド・フラワーの内容

●低管理による野草での花園づくり

～手入れの行き届いた花壇のように、繊細な花の造形（配植・色）を求めず、おおらかに花が咲き乱れる景色を楽しむ。

特 性：●広域面積の緑化（緑花）。

●植物界の法則に沿った自力生育～丈夫な花を咲かせる。

●メンテナンスフリー～ないし、省力管理。

●植変えなどの手間を省いても、季節ごとに花の観賞が楽しめる（何種類かの花がかわるがわる咲く）。

方法：01. 植栽地の土づくりが必要

●雑草の駆除～刈取り、除根、薬剤処理など

●石、ガラス、木根などの除去～土の耕転により、不要物の除去

●良質土の客土～10～20cmの表土の取換え、または客土

02. 播種～春播き（3～5月）と秋播き（9～10月）がある

●人 口 工 法～小面積に対応

●機 械 工 法～大面積、トラクターなどにより播種しながら、整地を行う

●種子吹付工法～大面積・法面により適用、ハイドロシーダー等で施工

●その他 種子ロープ（“プロープ” — サラダ種苗）

～種子・保水剤・発芽促進剤などを包んだ不織布ロープ発芽率の向上、省力化、均一性がある

“ビューティファイベレート” — サカタ種苗

～種子・用土が水溶性の袋にパック

“フラワーベレート” — 富士見種苗

～追播き用の総合材料（種子・肥料・改良剤の入った土壌）

03. 草花の種類～気象・土壌などの環境条件と演出内容で決める

●数種類の種子をブレンドすることで、多くの花を長く楽しめる。

●同時に、失敗を防ぎ、適合種への移行を図る。

～各企業により、様々なブレンドが提案されている

●1年草は、こぼれ種子で翌年開花が行われるが、2年目以降は、宿根草が優先しやすい。

04. メンテナンスの内容

毎年同じように開花させるには、必要に応じて次のことを行う。

●結実後の刈込み

●追肥

●追播き

●雑草処理

事例

テ ー マ	場 所	内 容	緑 花 構 成
花のある街角、 マインティ世田谷ブ ラン	東京都世田谷区	理想的な街づくりをめざす世田谷のイメージ を花のカラーイメージで提案	花菱草、さんせんか、ジャスターデージー、 河原なでしこ、かすみ草、ひなげしなど
花の公園、 カクテルフラワーラ ンドプラン	神奈川県川崎市	草花の咲く中でスポーツを楽しんだり、憩う ことのできる多目的広場	オオバコ、レンゲ、食用タンポポ、藍なでし こ、おおばこメディア、のこぎり草、忘れな 草、千本タンポポなど
白川村、 風雲文化に花が舞う プラン	岐阜県白川村	長い風雲に培われた文化に野の花々、静謐な 花々が彩りを添える、白川村に通じる道はず べて花の道	のこぎり草、アリッサム、きんけい草、カリ フォルニアアビー、ガザニア、リナム、月見 草、宿根バーベナ、河原なでしこなど
南伊豆町、 花の町、ハーブの町 プラン	静岡県南伊豆町	南伊豆町の観光素材として、ワイルドフラワ ーによる5ヵ月リレー開花プラン	アネモネ区、ハーブ区、鎌草対策区など
春、夏のゲレンデ 白～色プラン	長野県岡谷高原	春、夏のゲレンデに残雪をイメージする白い 花のゾーン	クリサンセマムスノーボール、かすみ草、河 原なでしこ、マトリカリアセレスマナトラなど
スキー場、ハーブガ ーデンプラン	長野県岡谷高原	今流行のハーブを春、夏のスキー場の草原で 楽しむ	カモミールローマン、チャイブ、フエンネル フロレンス、ヒソップ、ラベンダートルー、 ペパーミント、スベアメントなど
賢い道の中にまぶし い花園、大島プラン	東京都大島町	日光リゾート地である大島の環境カラーイメ ージづくり	きんけい草、ルドベキア、花菱草、ケン、ナ デシコ、ジャスターデージー、小町草など